

明治大学博物館

年報

2018年度



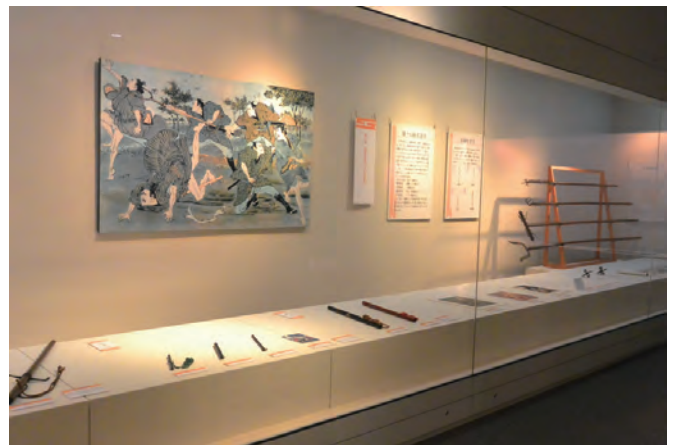
明治大学博物館



# 2018年度の展示活動



特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」



アンコール展示  
十手と錦絵—描かれた捕者の世界



新収蔵・収蔵資料展 2018





明大考古学の過去・現在・未来  
—モノ学のその先へ—



法政大学・明治大学・関西大学 3大学連携協力協定締結記念  
ボアソナードとその教え子たち



地方創生の機運  
—1970～80年代の伝統的工芸品収集—



新収蔵・収蔵資料展 2019

明治大学博物館

# 年 報

2018年度



明治大学博物館

# 目次

口 絵	1
I 展示活動	5
1 特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」(5)	
2 その他の展覧会(8)	
II 教育普及活動	10
1 講座(10)	
2 博物館実習(11)	
3 在学生対象事業(11)	
4 アウトリーチ活動(11)	
5 社会連携・大学間連携(11)	
6 情報発信(12)	
7 ボランティア受け入れ(13)	
8 明治大学博物館友の会(13)	
III 研究活動	14
1 調査・研究活動(14)	
2 研究業績(15)	
3 刊行物(15)	
IV 収蔵資料	16
V 統計・一覧・資料	22
1 入館データ(22)	
2 組織・構成(26)	
3 予算・決算(28)	
4 施設概要・見取り図(30)	
5 規程(32)	
6 2018年度教育・研究に関する長期・中期計画(38)	
7 2018年度単年度計画重点項目一覧(40)	
8 明治大学博物館のあゆみ(40)	

表紙写真 特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」展示

# I 展示活動

## 1 特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」

### (1) 実施形態

主 催 明治大学博物館      協 力 日英共同調査グループ・Gowland Project  
 後 援 朝日新聞社              助 成 芸術文化振興基金  
 会 期 2018年10月13日(土)～12月2日(日)51日間(会期中無休)  
       ※11月17日(土)は19:00まで臨時に開館延長  
 会 場 アカデミーコモン地下1階 博物館特別展示室    入 場 料 ¥300    入場者数 4,754名  
 企画構成 忽那敬三(考古部門学芸員)

### (2) 趣旨

明治期のいわゆる「お雇い外国人」の一人であった英国人技師・ウィリアム・ガウランド(William Gowland, 1842-1922)は、本務の傍らで日本の古墳研究を手掛けたことで知られ、彼が収集したコレクションはロンドンの大英博物館で展示されている。2008年、当館は後藤和雄氏(元朝日新聞編集委員)よりガウランドが撮影した当時の日本の古墳の姿を収めた希少な写真(複製、大英博物館所蔵)約200点の寄託を受けた。以来、日英の研究者による研究プロジェクトに参加し、大英博物館収蔵の関連資料の調査を行うほか、国内機関と大英博物館との橋渡し役を務めるなど、日本におけるガウランド研究の拠点となっている。

このたび、これまでの当館の実績が評価され、大英博物館から15点の資料を借用することが可能となった。今回の展示では、大英博物館と日英共同調査グループ・Gowland Projectの協力を得て、当館と同プロジェクトによるこれまでの調査・研究の成果をもとに、ガウランドが行った日本の古墳研究の実像について紹介する。

### (3) 展示構成

#### ①ウィリアム・ガウランドとは

ウィリアム・ガウランドの生い立ちから来日、帰国後の動向など年譜をもとに彼の生涯をパネルで概説した。

#### ②造幣局での業績

ガウランドの本務である造幣局での事績について紹介した。大英博物館所蔵の貴重な造幣局創設期の写真の紙焼き資料や、同時期に铸造された銅貨、創業当時の造幣局の図など造幣博物館所蔵資料などから、外国人技師のなかで次第に中心的な立場となり、日本の金属加工技術の近代化に果たした貢献について述べた。

#### ③登山

ガウランドが日本で最もよく知られているのが登山の分野である。「日本アルプス」の命名者であり、明治期の外国人登山者として先駆者的な存在であった。彼自身は登山についての著作をほとんど残していないが、初めて「日本アルプス」という名称が使用されたアーネスト・サトウ、A.G.S. ホーズ著『中部・北部日本案内』初版本や、岐阜県高山市に残る登山記録文書を用いて登山の業績について紹介した。

#### ④日本絵画の収集

ガウランドは日本絵画の収集にも多くの時間と財力を注ぎ、数百点のコレクションを有していた。大阪や帰国後のロンドンで展示会を開催したほか、研究論文も発表しており、明治期の日本絵画研究者としての顔も持っていた。大英博物館には彼が寄贈した約100点のコレクションが収蔵されているほか、泉屋博古館蔵『某氏所蔵品入札目録』(大正7年5月)から、大正期に日本国内で売却されたコレクションの内容が判明している。展示では、後者の原本を出展した。

#### ⑤古墳研究の道へ

イギリスの外交官・アーネスト・サトウとジョージ・アストンの影響によって古墳研究を始め、詳細な図面による記録と写真を用いた近代的な調査を行うなど、ガウランドの先進的な研究の様子を紹介した。出展した大英博物館所蔵のコナベ古墳の測量図と石棺一覧表は、彼の精緻な研究を如実に物語る資料である。



## ⑥鹿谷古墳群の調査

ガウランド・コレクションの中核をなす鹿谷古墳群について紹介した。鹿谷古墳群はガウランドが古墳研究を始めたころに訪れた古墳群であり、発掘調査は行わなかったが、出土品を購入しているほか、出土古墳に至る現地までの行程図や行政機関が作成した中央機関への経緯報告の文書の写しを入手し、また現地で撮影を行うなど多くの記録が残っている。出土品のうち、大英博物館蔵の須恵器台付子持壺を出展したほか、馬具のレプリカ類を展示した。また、同館蔵の古墳の分布図について、初めて京都国立博物館蔵の下書きの図と並べて展示を行った。石室の写真もあわせて展示し、考古資料・図・写真により彼が手掛けた同古墳群の詳細な調査研究の様子を示した。

## ⑦「天皇陵」古墳への関心

ガウランドは大阪が拠点であったこともあり、大阪・奈良に多く存在する巨大な前方後円墳に強い興味を持ち、文献も加えながら「天皇陵」とされる古墳の研究を熱心に行った。これまで、彼が撮影した仁徳天皇陵古墳や応神天皇陵古墳の写真によって彼の研究が説明されることが多かったが、今回は彼がロンドンでの学会発表時に使用したと考えられる全長5mにも及ぶ奈良県五条野丸山古墳の巨大な図を大英博物館から借用して展示した。彼の前方後円墳や「天皇陵」古墳に対する関心の高さを実感できる資料である。

## ⑧芝山古墳の発掘

芝山古墳はガウランドが唯一発掘調査を実施した古墳である。日本で初めて区画区分法を用いて精密な発掘調査を行った古墳として知られ、日本考古学研究史のうえでも重要な調査である。その区画区分法による出土遺物を記録した図面のほか、出土須恵器と石室の大型図面を大英博物館から借用して出展した。また、展示室前のロビーに実際の石室の2/3の大きさ（長さ約4m）で図面の記載内容を再現し、導入展示として来場者にインパクトを与える効果を狙った。展示室外に設置したため、特別展目的以外の来館者にも高い訴求力があつた。

## ⑨横穴式石室の調査と研究

ガウランドの研究の中心は、ヨーロッパにもみられる石で築いた部屋状の埋葬施設を持つ古墳であり、図面や写真など多くの調査記録を残している。当館寄託資料である写真資料や、福岡県綾塚古墳の図面、初期のガウランド研究で取り上げられた鳥根県上塩冶築山古墳の図面（いずれも大英博物館蔵）などから、横穴式石室に対する彼の関心の高さを浮き彫りにした。

あわせて、展示室内に近年のGowland Projectによる写真測量データを用いて実物大の石室と石棺を再現した。費用の関係で石室内部の壁面は平面的な表現にとどまったが、石棺は立体的に造形し、石室と石棺の大きさを体感できる展示となった。同時に、同データを使った石室の3次元動画についても展示室内で上映したが、それほど古墳に興味を持っていなかった一般来場者も高い関心を寄せ、大きな反響があつた。

## ⑩考古遺物の収集と研究

ガウランドは古墳だけではなく考古資料にも高い関心を寄せ、古墳の出土資料を厳密に検討して年代を推測した。図書寮博物館（現東京国立博物館）で調査を行うとともに、自らも須恵器等を数多く購入しており、それらがガウランド・コレクションとして大英博物館に収蔵されている。写真や図面をパネルで紹介したほか、今回は大英博物館で長らく常設出展されていた伝上野国出土の装飾付台付広口壺の借用と展示が実現した。また今回の展示にあわせて制作した伝武蔵国女子埴輪と伝備前国装飾付脚付壺のレプリカは、代表的なガウランド・コレクションの資料を来館者に印象付けることができた。

また、体験コーナーを設置しレプリカ制作時に使用した3Dプリンタによる元型を着色して「触る」ことが可能な展示もあわせて行った。本来は廃棄される元型を有効に活用した。

## ⑪外国人研究者との交流

ガウランドに影響を与えた外国人研究者について紹介し、彼らがガウランドの研究に与えた影響を述べた。サトウとナウマンについては大英博物館所蔵の直筆書簡を展示し、アストンとヒッチコック、マンローについては本学図書館所蔵の文献を出展した。

## (4) 展示資料の概要

出展総数 71点（うち大英博物館からの出展品15点・館藏品5点・当館寄託写真データ8点）

出展機関 大英博物館 造幣博物館 飛騨高山まちの博物館 立教大学図書館 泉屋博古館 京都国立博物館  
明治大学図書館

## (5) 関連イベント

### ①開催記念講演会

タイトル 大英博物館とガウランド・コレクション  
 講 師 サイモン・ケイナー セインズベリー日本藝術研究所統括役所長  
 日 時 2018年10月26日(金) 13:30～15:00  
 会 場 明治大学グローバルフロント2F 4021教室 参加者 50名

### ②博物館公開講座「考古学ゼミナール」 ※リバティアカデミーで開講

タイトル 第63回考古学ゼミナール「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究 - 大英博物館に残された“学術の遺産”」  
 講 師 忽那敬三, 諫早直人(京都府立大学), 富山直人(神戸市立図書館, 以上 Gowland Project 日本メンバー), 一瀬和夫(京都橘大学, Gowland Project 日本リーダー)  
 日 時 全4回, 2018年10月26日, 11月9日, 11月16日, 11月30日, いずれも金曜, 18:00～20:00  
 受講料 5,000円  
 会 場 明治大学アカデミーコモン8階 308E教室 受講登録者 69名

### ③関連遺跡見学会 ※博物館友の会主催

タイトル 「ウィリアム・ガウランドの足跡を畿内にたどる」  
 日 時 2018年11月20日(水)～21日(木)  
 同行講師 忽那敬三(考古部門学芸員)  
 現地講師 土井孝則氏(亀岡市教育委員会文化財係長), 橘泉氏(堺市博物館学芸員)ほか  
 参加者 40名

### ④ギャラリートーク

2018年10月13日(土), 10月28日(日※ホームカミングデー, 2回開催), 11月3日(土・祝日), 11月17日(土), 11月30日(金), 12月1日(土※3回開催), 12月2日(日)

### ⑤子どもワークシート

小学生を対象に希望者にワークシートを配布し展示内容の理解を支援した。参加賞や全問正解賞としてミュージアムショップの博物館グッズを活用した。

### ⑥関連展示 明大コレクション41 ガウランド研究の歩み—大塚初重氏の調査資料から—

2018年9月27日～12月10日(75日間)の期間, 常設展示室の展示ケースで開催。大塚初重(本学名誉教授)氏寄贈のガウランド資料の実測図面と, 1967年当時の大英博物館の展示状況の写真などから研究と歩みを紹介。

## (6) 成果

- ・ウィリアム・ガウランドを主題とした展覧会としては, 国内では初めて大英博物館所蔵資料の出展が実現した。
- ・今回借用した大英博物館所蔵資料15点は, いずれも日本国内で初めて出展されたものである。また, このうち紙焼資料・図面資料・須恵器蓋坏は大英博物館でも大正期以降は一般に公開されていなかったものである。紙焼・図面資料には, 今回が初公開となるものも含まれている。図録に掲載した写真も初公開の資料が多数あり, 今後の研究にとって重要である。
- ・大英博物館が当館級の小規模館園に資料を出展することは極めて異例である。また当館が展示施設としてイギリスの厳しい貸し出し基準をクリアした点は, 当館の展示施設及び機関としての対外的な評価を高めたといえる。
- ・考古学以外の業績についても紹介したことで, 造幣, 山岳, 日本美術, 明治期の日本と海外の交流史など様々な分野の研究者や関心を持つ一般の来場者があり, 多方面にわたって研究成果が共有される貴重な機会となった。
- ・展覧会図録は大英博物館とイギリス・セインズベリー日本藝術研究所に所蔵され, 今後にわたって研究資料として活用される。
- ・有料入場者が全体の36%という高い割合を占め, 学外からの来場者が多かったことを示している。石室の復元や3次元画像, 触る展示やワークシート等により, 古墳への関心が薄い層や幅広い年齢層に訴求するこ



とができた。

- ・レプリカ2点は、今後にわたって日本国内での研究や展示への活用をはかることができるという点で、大きな意義をもつといえる。

## 2 その他の展覧会

### (1) 主催・共催展覧会

#### ①アンコール展示

##### 十手と錦絵―描かれた捕者の世界

会 期 2018年3月10日～4月8日 30日間  
入場者数 2,856名

2017年9月に行った「十手」と「錦絵」を組み合わせた展示会が非常に好評で、会期が短く見逃したという声にこたえて、一部展示品の入れ替えを行ってアンコール展示を行った。この展示では、小説やドラマでおなじみの与力や同心の十手、火付盗賊改の十手、捕縛場面を描いた歌舞伎の錦絵など、実物の十手類と錦絵を組み合わせ、当時の捕者のイメージを表現した。

#### ②新収蔵・収蔵資料展 2018

会 期 2018年4月13日～5月6日 24日間  
入場者数 2,244名

2017年度に博物館が新たに収集・受贈した資料および関連する収蔵資料を紹介。刑事部門では、火付の罪で火刑になったと言われる八百屋お七を描いた錦絵「松竹梅湯嶋掛額」など。商品部門では、薩摩焼ほか九州諸窯の陶器など。考古部門では、前場幸治コレクションの西郷隆盛の肖像画などを展示。

#### ③地方創生の機運

##### ―1970～80年代の伝統的工芸品収集―

会 期 2018年8月22日～9月18日 28日間  
入場者数 2,280名

物充足による成熟文化の時代、消費性向の多様化、多品種少量生産という、伝統的工芸品産業の現代的課題とされるものは、すでに1980年代の初頭には指摘されていた。環境破壊や大都市一極集中といった情勢に対し、自然保護や伝統文化・地方文化への関心が高まりを見せた頃、1974年に通商産業省は「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」を制定しているが、その時期における明治大学商品陳列館による伝統的工芸品収集の経緯を再検証した。

#### ④新収蔵・収蔵資料展 2019

会 期 2019年3月23日～4月21日 30日間  
入場者数 2,605名

2018年度に博物館が新たに収集・受贈した資料および関連する収蔵資料を紹介。刑事部門では捕縄術の免許皆伝書「新新治源流縄」など、商品部門では楽山窯、出西窯をはじめとする山陰地方の伝統陶器マーケティング研究関連の収集資料など、考古部門では長期貸し出しから戻った千葉県江原台遺跡の山形土偶（縄文時代後期）と、当館蔵の

主要な土偶約30点を特別出展した。

### (2) 学内団体・外部団体による展覧会

#### ①明大考古学の過去・現在・未来

##### ―モノ学のその先へ―

会 期 2018年5月21日～6月21日 32日間  
入場者数 4,022名

主 催 日本考古学協会第84回総会実行委員会  
企 画 明治大学考古学研究室・明治大学博物館

明大考古学は、群馬県岩宿遺跡や静岡県登呂遺跡をはじめとする戦後の重要遺跡の発掘を精力的に行い、その後も数多くの発掘成果を学界に発信することで、日本考古学を牽引した。現在、重要文化財を含むこれらの出土品の多くは、明治大学博物館に保管されている。近年ではこれら研究の基準資料を今日的な視点と方法から分析し、新たな事実も明らかにされてきた。本展示ではこれらの成果について公開し、考古資料のもつ文化資源としての意義を問い、加えて本学の多様な考古研究組織による最新成果を交え、明大考古学の過去・現在・未来を展望した。

#### ②法政大学・明治大学・関西大学3大学連携協力協定締結記念 ポアソナードとその教え子たち

会 期 2018年7月7日～8月5日 30日間  
入場者数 3,866名

主 催 法政大学、明治大学、関西大学

法政大学、明治大学及び関西大学は、1880年代に「日本近代法の父」と謳われたギュスターヴ・エミール・ボアソナード (Gustave Emile Boissonade de Fontarabie, 1825-1910) の薫陶を受けた教え子たちが創立した。後進の育成に心血を注いだボアソナードの事績と、その意志を継いで法学普及につとめた教え子たち、そして3大学の活動を振り返り、その意義を改めて問い直した。

### (3) コレクション展

#### ①商品部門

##### ア 小千谷 縮 紬

期間 2018年3月27日～5月28日 63日間

小千谷縮の成立と生産減少の歴史、現在の産地の取り組みを、同産地の紬と共に展示。

##### イ 戦後経済復興を彩る新素材

期間 2018年5月29日～7月10日 43日間

旧商品陳列館が草創期に収集した化学繊維や合成樹脂製品及びその標本類を展示。

##### ウ 薩摩切子

期間 2018年7月11日～9月12日 56日間

主に薩摩切子の歴史を中心に、同時に江戸切子との違いを比較展示した。

**エ 尾張七宝**

期間 2018年9月25日～11月21日 58日間

日本七宝の祖である尾張七宝を、実際に使用する道具とともに展示。七宝関係の技術革新や作家に関する紹介も行った。

**オ 出雲の民藝陶器**

期間 2018年11月22日～2019年1月31日 71日間

公開特別講義(12/14開催)の参考展示。銀座・手仕事直売所に当初から出店している出西窯製品を展示。

**カ 文房四宝**

期間 2019年2月1日～3月26日 54日間

文房四宝(墨・硯・筆・紙)、特に墨に焦点を当て展示。2018年経済産業大臣指定の伝統的工芸品となった奈良墨の紹介を行った。

**キ 藍染め**

期間 2019年3月27日～6月4日(予定) 70日間

各地で生産されてきた藍染めの染織品を展示し、その特徴を紹介した。

**②刑事部門****ア 錦絵で見る戊辰戦争**

期間 2018年8月29日～2019年1月15日 127日間

当館所蔵の戊辰戦争関係の戦争錦絵を二度の展示替えをしつつ展示。戊辰戦争の錦絵に見られる特徴を紹介した。

**③考古部門****ア 明大コレクション 39：大湯環状列石**

期間 2018年2月21日～6月3日 103日間

後藤守一(本学名誉教授)氏が調査した秋田県大湯環状列石の資料の中から土器・石器・土製品などを紹介。

**イ 明大コレクション 40：中国古代の青銅武器**

期間 2018年6月5日～9月20日 100日間

殷代から漢代の青銅製武器を展示。その変遷と地域的な広がりを紹介。

**ウ 明大コレクション 41：ガウランド研究の歩み—大塚初重氏の調査資料から—**

期間 2018年9月27日～12月10日 75日間

大塚初重(本学名誉教授)氏寄贈のガウランド資料の調査図面や写真からその研究と歩みを紹介。

**エ 明大コレクション 42：前場幸治コレクション⑥国分寺の瓦**

期間 2018年12月15日～2019年3月26日 89日間

各国国分寺の軒丸瓦・軒平瓦を展示。平城京・京の瓦との同範関係や国分寺の造営事情について紹介。

**オ 明大コレクション 1：中国鏡**

期間 2019年3月30日～2019年6月9日(予定) 66日間

戦国代から隋唐代までの中国鏡40面を展示。鏡の形状や文様の変遷を紹介。

**(4) 図書館ギャラリー展示****明大考古学研究の原点—登呂遺跡・岩宿遺跡・夏島貝塚—**

会場 生田図書館 Gallery ZERO

会期 2019年1月10日～1月21日 12日間

明治大学の考古学研究の歩みは、1950年の文学部考古学専攻の設置と1952年の考古学陳列館の開館にはじまる。その後、日本列島全国各地で発掘調査を繰り返して、徹底した遺跡・遺物の研究にもとづく歴史構築に邁進した。本展示では、明大の考古学研究の原点となり、歴史教科書でもおなじみの静岡県登呂遺跡(弥生時代)、群馬県岩宿遺跡(旧石器時代)、神奈川県夏島貝塚(縄文時代)の発掘当時の状況や出土品(レプリカを含む)を紹介した。



## II 教育普及活動

### 1 講座

#### (1) リバティアカデミー博物館入門講座

##### ①使って楽しむやきもの講座4

日時	2018年4月10日～5月22日 隔週火曜日 15:00～16:30〈全4回〉		
定員	20名		
会場	博物館教室		
講師	外山徹（商品部門学芸員）		
受講料	¥5,000	受講登録者数	11名
《趣旨》	伝統工芸がぐり抜けてきた時代における、やきものに対するさまざまな文化的諸相の反映について解き明かした。		
	①日本陶磁史におけるグローバルゼーション ②焼成技法 ③山陰の新作民藝運動 ④陶磁史における20世紀前期		

##### ②稲作の伝来と青銅器のまつり

日時	2018年10月25日～11月29日 木曜日 13:00～14:30〈全4回〉		
定員	30名		
会場	博物館教室		
講師	忽那敬三（考古部門学芸員）		
受講料	¥5,000	受講登録者数	30名
《趣旨》	リニューアル部分を中心に、弥生時代の常設展示について概説した。常設展示に出展していない収蔵資料についても講座で紹介し、観察を毎回実施した。		
	①稲作の始まりと遠賀川式土器の広がり ②再葬墓の「発見」 ③黄金色の輝き・青銅器のまつり ④弥生文化の波及・関東地方の中期～後期社会		

#### (2) リバティアカデミー博物館公開講座

##### ①明治大学博物館考古学ゼミナール

##### ア 第62回 DNAからさぐる古代の日本列島

【企画】藤山龍造・島田和高

日時	2018年6月8日～6月29日 金曜日 18:00～20:00〈全4回〉		
定員	150名		
講師	①藤山龍造（明治大学）、②安達登（山梨大学）、 ③田中克典（弘前大学）、④太田博樹（北里大学・大学院）		
受講料	¥5,000	受講登録者数	100名
《趣旨》	人骨化石のDNA解析は、人類学・考古学に日々革新的な成果を提供している。本講座では、古DNA研究の最先端で活躍する研究者を招き、列島人類の系統を議論した。		

- ①総論・古DNA解析と考古学（藤山）
- ②「日本人」とは何か（安達）
- ③コメは何処から（田中）
- ④農耕社会の人びととDNA（太田）

##### イ 第63回 ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究

日時	2018年10月26日～11月30日 金曜日 18:00～20:00〈全4回〉		
定員	100名		
講師	①忽那敬三（考古部門学芸員）、②諫早直人（京都府立大学）、 ③富山直人（神戸市立図書館）、④一瀬和夫（京都橘大学）		
受講料	¥5,000	受講登録者数	69名
《趣旨》	特別展の関連講座として実施。大英博物館が所蔵するガウランド・コレクションについて、明治大学博物館と日英の研究者グループ・Gowland Projectが7年にわたって行ってきた調査に基づく最新の研究成果を紹介した。		
	①ウィリアム・ガウランドーその生涯と古墳研究（忽那） ②ガウランドが伝えた「遺産」ー京都府鹿谷古墳群の記録と出土資料ー（諫早） ③ガウランドの「ドルメン」研究とその協力者たち（富山） ④日本の古墳研究第一人者としてのガウランド（一瀬）		

#### (3) 商学研究科と共催の公開特別講義

商学部・商学研究科連携

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.13

手仕事新時代ー百貨店における工芸品販売のリフレーミングー

日時	2018年12月14日 金曜日 10:50～12:30		
会場	リバティタワー 1021教室		
講師	秋山功一（株式会社松屋リビング・呉服・美術部MD課長）		
パネリスト	菊池一夫（商学部教授）、福田康典（商学部教授）、 上原義子（商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授）、劉亜水（商学部助教）		
進行	外山徹（商品部門学芸員）		
受講料	無料	受講者数	232名
	商学研究科「商品学特論B」、商学部「商品学B」「商業経営論B」「市場調査論B」の拡大版として実施。手工芸品販売イベント「銀座・手仕事直売所」を事例に、従来のモノ中心のテーマ設定を見直し、売り場で作り手が直に顧客に対応するという、「売り方」をコンセプトとするリフレーミングのあり方、直売にオンライン情報を組み合わせた新しい型の「作り手ー使い手」の関係づくりや、生活観に基づいた商品のセレクトによる「スタイル」の提案などが報告された。		

## 2 博物館実習

### (1) 館務実習

#### ①商品部門

《参加者数》 明治大学 14名

《実習内容》 館内施設・設備見学，ワークシート作成実習，  
収蔵資料整理，特別展受付

#### ②刑事部門

《参加者数》 明治大学 8名

《実習内容》 館内施設・設備見学，収蔵資料整理，特別展  
受付

#### ③考古部門

《参加者数》 明治大学 20名（学部生 18，院生 1，科目等  
履修生 1）

《実習内容》 収蔵資料整理，保存処理，坂本万七写真研究  
所コレクション整理，企画展パネル等製作，  
特別展受付

### (2) 見学実習

2018年9月10日 南山大学学芸員課程 10名

## 3 在学生対象事業

### (1) 学部間共通総合講座

#### 秋学期開講 月曜4限

博物館の歴史及び大学博物館の成立事情から大学博物館の社会的な使命までを理解する。授業では、学術資源の豊富な収蔵を特徴とする大学博物館を事例として、資料収集の経緯と手順、学術資源として幅広く研究に活用されるための手当て、さらに研究成果を社会に還元する装置としての展覧会開催に言及し、大学及び大学博物館と一般市民による生涯学習活動との関わりなど、収集・研究・教育という博物館活動の一連の流れを理解する。

回	テーマ	担当者
①	近代博物館の成立と大学博物館	矢島國雄※
②	我が国における大学博物館の現状	島田和高
③	博物館資料の形成1（刑事関係資料）	外山 徹
④	博物館資料の形成2（商品関係資料）	外山 徹
⑤	博物館資料の形成3（旧石器・縄文資料）	島田和高
⑥	博物館資料の形成4（弥生・古墳資料）	忽那敬三
⑦	展覧会の開催まで（2018年度特別展）	忽那敬三
⑧	博物館の施設・設備	島田和高
⑨	博物館資料の保管と整理1（考古資料）	忽那敬三
⑩	博物館資料の保管と整理2（古文書資料）	外山 徹
⑪	考古資料の発掘と調査・研究	島田和高
⑫	古文書資料の調査・研究と資料公開	外山 徹
⑬	生涯学習活動と友の会活動	忽那敬三
⑭	総括 ふりかえりと意見交換	矢島國雄

受講登録者数 24名

※文学部教授（学芸員養成課程）・博物館運営委員・本講座  
コーディネーター

### (2) 国際日本学部「文化資料学」

#### 春学期開講 月曜5限

最少開講人数に達しなかったため開講しなかった

## 4 アウトリーチ活動

### 出張授業「弥生ムラのタイムカプセル登呂遺跡」

日 時：2018年5月1日（火）

対 象：明治大学付属明治中学校2年生

講 師：忽那敬三（考古部門学芸員）

受講者数：176名

## 5 社会連携・大学間連携

### (1) 地域連携

実施なし

### (2) 大学間連携

南山大学人類学博物館との交流事業

#### ①交換展示の実施

ア 明大考古学のいま、むかし—モノ学のその先へ—

会期：2018年9月29日～11月4日 入場無料

会場：南山大学人類学博物館常設展示室

イ 南山大学人類学博物館所蔵 愛知の考古資料—土器・  
陶器を中心に

会期：9月29日～11月4日 入場無料

会場：明治大学博物館常設展示室

#### ②社会人向けギャラリートーク

ア 明治大学 2018年10月27日 14:00～15:00

講 師 黒沢 浩（南山大学人文学部教授）

参加者 34名

イ 南山大学 2018年10月13日 15:15～16:15

講 師 島田和高（考古部門学芸員）

参加者 22名

#### ③在学生向け特別講義

ア 南山大学 2018年5月25日 5限

テーマ 大学博物館の使命と機能

講 師 外山 徹（商品部門学芸員）

受講生 105名

※黒沢浩教授「博物館概論」として実施

イ 明治大学 2018年11月6日 3・4限

テーマ ユニバーサル・ミュージアムを目指して  
“展示”という表象をめぐる

講 師 黒沢 浩（南山大学人文学部教授）



受講生 28名

※学芸員養成課程「博物館実習」として実施

#### ④学術シンポジウム

博物館・美術館における参加・体験型プログラム

日時 2018年11月26日(月) 10:30～17:30

会場 南山大学人類学博物館/R棟65教室

ワークショップ

南山大学人類学博物館「「触る」プログラム」

大野照文(三重県立博物館長)「貝体新書」

参加者 23名

シンポジウム

基調報告 大野照文「参加・体験型プログラムが拓く  
学びの未来」

実践報告・研究発表 藤島美菜(愛知県美術館)「ひと・  
モノが拓く一ふれる世界の広がり 盲学校との連携  
を中心に」/藤村俊(美濃加茂市民ミュージアム)「身  
体で確かめる「古墳」・「ダム」/鈴木康二(ちゃ  
いれじ事務局長)「めざすのは「1対1」～未就学  
児向けちゃいれじ歴史系ワークショップの実践～」  
/外山徹(明治大学博物館)「英国の博物館教育に  
おける展示物の見せ方について—ワークシートの設  
問分析を通して—」

パネルディスカッション

参加者 24名

#### ⑤協定の締結

2019年3月31日に4期事業(2019～2021年度)の協  
定を締結した。

## 6 情報発信

### (1) 印刷物

①明治大学博物館広報誌『ミュージアム・アイズ』

A4判 16頁

71号 特集 特別展ウィリアム・ガウランドと日本の  
古墳研究(5,000部+特別展会期中に1,000  
部増刷)

72号 特集 博物館創設90周年@明治大学(5,000部)

②『明治大学博物館年報2017年度』100部

ウェブ公開のため配布は学内関係者のみ

③その他

展覧会案内2019(A4三ツ折) 20,000部

常設展示リーフレット増刷(A4三ツ折) 5,000部

### (2) ホームページの公開

ニューズ一覧/イベント一覧/ごあいさつ, 明治大学博物  
館の理念・目標/展覧会案内—これまでの展覧会, 2017年・  
2018年・2019年展覧会案内/来館案内 —開館時間・休館  
日・アクセス等, 館内の取材・撮影について, 博物館蔵資  
料の利用/図書・古文書の利用—博物館図書室, 古文書閱

覧のご案内/団体見学について/教育プログラム/ミュー  
ジウムショップM2/展示部門紹介—大学史展示室, 商品  
部門, 刑事部門, 考古部門/博物館の重点事業(政策経費  
の取り組み)/学芸スタッフ紹介/明治大学博物館友の会  
—入会のご案内, 行事予定, 展示解説ボランティアについ  
て, 図書室受付ボランティアの募集について, 分科会のご  
案内/ 広報誌「ミュージアム・アイズ」/博物館年報/  
明治大学博物館アーカイブ

### (3) 報道機関等による取材

①新聞・雑誌掲載

明治大学博物館紹介 『散歩の達人 駅からさんぽ東京』  
交通新聞社

明治大学博物館紹介 「日本経済新聞」地域経済面 日本  
経済新聞社

明治大学博物館紹介 「東京新聞」土曜日朝刊連載「東京  
どんぶらこ」東京新聞

明治大学博物館 刑事部門紹介 「愛媛新聞」愛媛新聞社

明治大学博物館紹介 『おすすめコース東京+横浜』教材  
研究所

明治大学博物館 刑事部門紹介 「朝日中高生新聞」朝日  
学生新聞社

②テレビ放映

明治大学博物館 刑事部門紹介 「東京サイト」テレビ朝  
日

明治大学博物館 刑事部門紹介 「報道1930」BS-TBS

明治大学博物館 考古部門紹介 「世界の何だコレ!?ミ  
ステリー」フジテレビジョン

明治大学博物館 刑事部門紹介 「歴史科学捜査班」日本  
BS放送

明治大学博物館 刑事部門紹介 「J-Trip Plan」NHK  
WORLD

③ラジオ放送・ウェブサイト・その他

明治大学博物館 刑事部門紹介 「サブカルトキーパー」  
サブカルトキーパー

明治大学博物館 刑事部門紹介 千代田区映像広報「歴史  
で発見!千代田区」千代田区役所広報広聴課

### (4) ミュージアムショップ

①グッズ販売

ミュージアムグッズの見本を展示

受付窓口およびホームページで刊行物等有償頒布

②他館の情報

大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレ  
ット・チラシを配布

③来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

④友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

⑤博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

## 7 ボランティア受け入れ

### (1) 常設展解説ボランティア

①参加者 友の会会員 40名

②研修日程及び内容

日程	研修種別	研修内容
2018年 6月6日	博物館教育 他	展示解説の理念と博物館教育の特性、避難経路の確認
6月6日	商品部門1 商品部門2	伝統的工芸品の成立 伝統的工芸品の文化的背景
6月13日	商品部門3 商品部門4	移り変わる商品 伝統的工芸品の価値創造
6月20日	刑事部門1 刑事部門2	日本の罪と罰、捜査と逮捕 他
7月4日	刑事部門3 刑事部門4	取り調べ、刑罰 他
7月11日	考古部門1 考古部門2	旧石器時代・縄文時代 他
7月18日	考古部門3 考古部門4	弥生時代・古墳時代
2019年 2月27日	3部門	フォローアップ研修

### (2) 図書室ボランティア

①参加者 友の会会員 41名

②内容 受付・入退出対応 40名、書架整理 4名（重複あり）

## 8 明治大学博物館友の会

①会員数 581名

②総会 2018年5月12日（土）

③講演会

ア 30周年記念講演会（考古分野）2018年5月12日

「弥生時代をどのように考えるか」

明治大学文学部教授 石川日出志

イ 第13回古代史講演会 2018年6月2日

「土器圧痕が語る縄文時代の食物利用」

熊本大学大学院人文社会科学部教授 小畑弘己

ウ 30周年記念講演会（近世分野）2018年6月30日

「鎖国と開国」

東京大学史料編纂所教授 山本博文

エ 講演会「日本考古学2018」2018年9月21日

「高松塚とキトラ～古墳壁画のメッセージを解く」

阪南大学国際観光学部教授 来村多加史

「北アメリカとドイツの墳丘墓」

明治大学文学部教授 佐々木憲一

オ 30周年記念講演会（工芸分野）2018年10月13日

「小森邦衛 髹漆の世界」

重要無形文化財 髹漆（人間国宝）小森邦衛

カ 第14回古代史講演会 2018年12月8日

「日本の国の形と地震史・火山史―地震史・噴火史の全体像を考える―」

東京大学名誉教授 保立道久

キ 世界史講演会 2019年1月19日

「古代ローマ人の生活」

山梨県立美術館館長、東京大学名誉教授 青柳正規

ク 会員発表会と講演会 2019年3月2日

第一部

「土偶に施された腹部の線を推理する」 松村祐安

「飛鳥より移り住んで30年下毛野（栃木県）古墳の地域性」 門田康洋

「北総の百庚申」 藤由美

第二部

「西南戦争と延岡」

明治大学文学部教授・博物館副館長 落合弘樹

ケ 第15回古代史講演会 2019年3月16日

「弥生時代の鉄器普及と地域社会の経済戦略」

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター センター長・教授 村上恭通

④見学会

ア 第23回会員案内による地元見学会「鎌倉東部をたずねて」

2018年4月6日

案内会員 佐藤茂

現地講師 鎌倉歴史文化交流館学芸員 大沢泉

現地案内 NPO法人鎌倉ガイド協会 野中実他2名

イ 江戸時代を探訪する Part VII 「武蔵野新田の足跡と江戸東京たてもの園をたずねて」

2018年7月12日

現地講師 織壁哲夫

小金井市史談会 塚田善久

ウ 30周年記念見学会「北海道道央地域の遺跡を訪ねて」

事前学習会 2018年8月29日

見学会 2018年9月6日～8日

同行講師 明治大学博物館学芸員 鳥田和 high

現地講師 遠軽町埋蔵文化財センター主任 熊谷誠

小樽市総合博物館館長 石川直章

伊達市噴火湾文化研究所主査・学芸員 青野友哉

苫小牧市美術博物館主査 武田正哉

勇武津資料館 赤石慎三

恵庭市郷土資料館主査・学芸員 長町章弘

エ 博物館特別展関連見学会「ウィリアム・ガウランドの

足跡を畿内にたどる」

2018年11月20日～21日

同行講師 明治大学博物館学芸員 忽那敬三

現地講師 亀岡市教育委員会文化財係長 土井孝則

堺市博物館学芸員 橘泉

⑤広報活動

ア 会報発行 年4回（春・夏・秋・冬）



- イ 行事案内 友の会ホームページでの情報提供
- ウ 友の会掲示板の活用, 行事チラシの作成

⑥博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	41名
展示解説員	火・水・木・金	40名

⑦学習サークル (活動原則として月1回)

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	29名	外山学芸員・森朋久氏※1
平成内藤家文書研究会	14名	伊能秀明氏※2
工芸の会	15名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	32名	島田学芸員
弥生文化研究会	31名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	38名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	30名	
前方後円墳研究会	32名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	27名	
古代東北アジアと日本研究会	24名	

※1 明治大学農学部兼任講師

※2 明治大学調査役

## Ⅲ 研究活動

### 1 調査・研究活動

#### (1) 商品部門

- ①「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会  
 <第1回>2018年5月18日 <第2回>7月13日  
 <第3回>9月21日 <第4回>2019年1月25日

#### ②山陰地方民藝陶器のマーケティング研究

- ア 鳥根県出雲地方調査 (2018年9月6日～7日)  
 布志名焼雲善窯, 同湯町窯, 袖師焼, 楽山焼館蔵品の製造元後継者である福間琇士氏 (湯町窯), 尾野友彦氏 (袖師焼) から収蔵資料に関する情報を, また, 現在における原料土, 製造技法, 販売動向, 商品開発等に関するヒアリング。楽山窯では新規資料収集品候補を選定した。

調査員: 上原義子 (商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授), 外山徹

- イ 鳥根県出雲地方調査 (2018年11月6日～7日)  
 布志名焼雲善窯, 同湯町窯, 袖師焼, 田部美術館原料土, 製造技法, 販売動向, 商品開発等に関するヒアリングをおこなった。また, 田部美術館で古作品を見学した。

調査員: 菊池一夫 (商学部教授), 外山徹

- ウ 信楽焼調査 (2019年3月18日～19日)  
 信楽焼振興協議会 滋賀県陶芸の森 等  
 各メーカーのショールームを視察するとともに, 産地の来歴, メーカー・卸商の種別・規模, 近代工業化への対応, 商品の変遷, 流通の状況などについてヒアリング調査をおこなった。

調査員: 菊池一夫 (商学部教授), 上原義子 (商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授), 外山徹

#### (2) 刑事部門

学生参加の古文書調査

- 対象 故里見庫男氏収集史料駒込村 (追加) 文書
- 期間 2019年2月26～28日
- 参加者 教員2名, 学生のべ13名
- 会場 明治大学博物館

#### (3) 考古部門

##### ①黒曜石原産地分析と研究成果の公開

科研費基盤C「先史人類動態解明の鍵としての黒曜石分析」(18K01092, 研究代表者: 眞島英壽)の一環として, 黒曜石原産地分析を実施した。対象は, 当館所蔵の下原・富士見町遺跡から出土した後期旧石器時代後半期石器群である。ポータブル型蛍光X線分析装置を用いることで, そのうち250点の黒曜石製石器を, 館内から持ち出すことなく元素濃度を測定した。測定は島田が実施した。原産地の判別は, 眞島英壽氏が構築した地質黒曜石の測定値データベースに基づいて行われた。また, 2011～2015年度に明治大学黒曜石研究センターが実施した大型研究「ヒト—資源環境系の人類誌」の研究成果を単行本 (小野昭編, 雄山閣) として刊行するにあたり, 島田が共著者として参画し, 編集を担当した。当該の単行本は2020年度博物館特別展のシナリオとして連動する予定。

##### ②ウィリアム・ガウランド写真資料 (寄託資料) 関連資料の調査

科学研究費基盤研究 (B)「ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築」(研究期間:2015年4月~2019年3月 研究代表者:一瀬和夫 京都橘大学教授)に忽那学芸員が研究協力者として参加。2018年7月11日に大英博物館収蔵のガウランドドキュメント資料の撮影及び内容の調査の実施,文化財を活用した展示施設を視察。

### ③展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査

南山大学人類学博物館(島田)／伊那市創造館(島田)／長野県立歴史館(島田)／横須賀市船久保遺跡(島田)／下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館(島田)／静岡大学静岡キャンパス(島田)

### ④伝玉里舟塚古墳資料および三味塚古墳武具整理作業

茨城県教育委員会・茨城県立歴史館・明治大学文学部考古学専攻と共同で報告作成作業を実施。

## 2 研究業績

### (1) 論文・著書

- 島田和高(共著)(2019)『人類と資源環境のダイナミクス I 旧石器時代』小野昭編,雄山閣,239p.
- 島田和高・忽那敬三(2019)「過去を掘る:明治大学の考古学研究と重要文化財」『日本農学図書館協議会誌』
- 眞島英壽・島田和高(2019)『ポータブル型蛍光X線分析装置を用いた東京都下原・富士見町遺跡の黒曜石器の非破壊分析と原産地推定』資源環境と人類9:51-62
- 忽那敬三(2019)『特別展 ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究』明治大学博物館
- 忽那敬三・佐々木憲一編(2019)「茨城県三味塚古墳出土遺物の研究」『明治大学博物館研究報告』第23号:1-54
- 外山 徹(2019)「鳥取県及び島根県出雲地方における陶磁器生産の産地特性」『明治大学博物館研究報告』24:19-32
- 外山 徹(2019)「英国の博物館教育における展示物の見せ方について—ワークシートの設問分析を通して—」『明治大学学芸員養成課程紀要 MUSEUMSTUDY』30:155-166

### (2) 学会発表

- 島田和高「長野県出川遺跡再訪」日本考古学協会第84回総会 セッション1:『教育・研究・文化資源としての基準資料』2018年5月27日(日),明治大学リビティタワー1022教室,(『日本考古学協会第83回総会研究発表要旨』:92-93),口頭
- 島田和高「長野県広原第Ⅱ遺跡における黒曜石をめぐる人類の行動」第8回 石材の集い,2018年7月14日(土),下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館,口頭
- 島田和高「旧石器時代人はどこで黒曜石を拾い集めたか:中部高地広原遺跡群発掘の成果から」信州から世界へ広

がる黒曜石研究の最前線,2018年10月27日(土),長野県立歴史館,口頭

島田和高「ナイフ形石器製作と石材利用」シンポジウム資源環境と人類2018:ナイフ・石鏃・磨製石斧—石材資源とその流通—,2018年12月8日(土),明治大学駿河台キャンパス リビティタワー1083教室,口頭

忽那敬三・佐々木憲一「常陸の古墳文化理解のための新研究」日本考古学協会第84回総会 セッション1:『教育・研究・文化資源としての基準資料』2018年5月27日(日),明治大学リビティタワー1022教室,(『日本考古学協会第83回総会研究発表要旨』:100-101)口頭

外山 徹「英国の博物館教育における展示物の見せ方について—ワークシートの設問分析を通して—」明治大学博物館・南山大学博物館合同シンポジウム『博物館・美術館における参加・体験型プログラム』2018年11月26日(月),南山大学名古屋キャンパスR棟65教室,口頭

### (3) 講演等

島田和高「<流行><つながり><みんな>の起源」未来博2019:8.6 ワークショップ,2018年8月6日,博報堂生活総合研究所,基調報告

## 3 刊行物

### (1) 『明治大学博物館研究報告』第23号(1,100部)

《研究報告》

茨城県三味塚古墳出土遺物の研究

忽那敬三・佐々木憲一・鈴木一有・太田雅晃・岩本崇・沢田むつ代

《研究ノート》

明治大学博物館所蔵の蕨手刀について

黒済和彦・赤沼英男・工藤景史

※2017年度に刊行予定であったが,制作が遅延し2018年度に刊行を延期した。

### (2) 『明治大学博物館研究報告』第24号(1,100部)

《講演録》

工芸のルネッサンス:民藝のプロデューサー・吉田璋也

木谷清人

《研究ノート》

鳥取県及び島根県出雲地方における陶磁器生産の産地特性  
外山 徹

《資料目録》

旧明治大学商品陳列館収集の山陰地方陶器資料所蔵品目録  
林田真由子

《特別講義抄録》

鳥取県における民芸振興策の刷新と実践:手づくりのやきもの等を事例として

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」

プロジェクト推進部会

手仕事新時代:百貨店における工芸品販売のリフレーミング

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」  
プロジェクト推進部会

※大久保忠和振興基金の成果報告書の刊行を予定していたが、2019 年度に延期した。

## IV 収蔵資料

### (1) 資料収集

#### ①資料数 (部門別)

		刑事	考古	商品	合計
受 入	購入	4	2	7	13
	受贈	188 ※	9	78	275
合計		192	11	85	288
前年度総数		215,056	218,636	4,924	438,616
当年度総数		215,248	218,647	5,009	438,904
時田昌瑞ことわざコレクション					1,450
前場幸治瓦コレクション					10,725
総合計					451,079

考古部門は実測図・書籍・写真は含めていない

※内藤家文書 (未整理 8 箱) は含めない

#### 《参考》年度別収蔵数 (部門別)

	刑事		考古		商品	
	購入	受贈	購入	受贈	購入	受贈
2013	17	97	13	31	2	2
2014	16	193 ※ 1	1	4,923	1	2
2015	8	1	2	0	20	13
2016	14	0	2	0	6	84
2017	1	4	1	134,974	23	20
2018	4	188 ※ 2	2	9	7	78

※ 1 他に未整理文書 19 箱分あり

※ 2 他に未整理文書 8 箱分あり

#### ②購入資料一覧

種別・分類	資料名
絵画資料	江戸之花勇姿／三代豊国画
古典籍等	江戸方角之絵図 置賜縣管内地誌略 里のしるべ 大阪朝日新聞号外「帝国憲法発布せらる」
考古遺物 レプリカ制作	大英博物館所蔵 伝備前国出土装飾付脚付壺 三味塚古墳短甲 (部分)
商品資料	出西窯製品 (ぼてぼて碗, 縄文偶丸鉢 26cm 角, 縁鉄砂呉須釉ボウル 7 寸, 柳 宗理ディレクション丸皿 (大), モーニ ングカップ計 5 点) 出雲焼刷毛目伊羅保写茶椀 出雲焼秋草の絵茶椀

#### ③受贈資料

部門	資料名
刑事	新新治源流縄 縄極意評伝様 島田正郎先生関係資料 (171 点) 内藤家文書 (未整理分 8 箱) 桜田門外水戸浪士狼藉ニ付留書 鉄製十手 鉄製十手 鉄製六角鉄砲十手 鉄製八角鉄砲十手 諸士法度寛文及高札天和 完 武家諸法度 御法度書 村役心得條目 町役心得條目 地方官会議聞書 全 石川縣改正 違式 図解 法律格言 憲法撮要 刑法讀本
商品	加賀友禅 花嫁のれん 染付達磨文猪口 (50 点) 色絵万年青文猪口 (25 点) 色絵桐文猪口 陶製エッグペーカー
考古	須恵器 提瓶 日本古墳文化論 (書籍) ガウランド・コレクション調査時の写真 (20 点) ガウランド・コレクション遺物実測図 (100 点) 三味塚古墳短甲レプリカ (本体) 二銭銅貨 (明治 10 年) 一銭銅貨 (明治 8 年) 二銭銅貨 (明治 8 年) 弥生式土器 壺形土器 土師器 甕形土器 須恵器 壺形土器

#### ④寄託資料

- ア 『刑罪大秘録』他 3 点：受託期間 2017 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 ※ 5 年ごとに更新
- イ 故里見庫男氏所蔵文書 (3373 点)：受託期間 2016 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日 (福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体 (いわき地域史学会) 及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた史料群) ※ 3 年ごとに更新
- ウ 大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写 (458 点)：受託期間 2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 ※ 3 年ごとに更新



エ 茨城県三昧塚古墳出土資料（151点）：受託期間2018年2月8日～2019年3月31日（甲冑及び小札。重要文化財指定にあたり、2017年度に所有権を茨城県に移管した）※毎年更新

#### ⑤資料修復

ア 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 1件  
イ 大室第187号墳出土 刀子1点 鉄鎌2点

#### ⑥教材製作

該当なし

## (2) 資料整理

### ①商品部門

ア 収蔵資料所在調査・再配架（陶磁器）  
イ 受贈資料の整理（台帳カード作成及び梱包、収蔵室への配架作業）保存容器を作製し陶磁器関係資料を収納した  
ウ 架蔵態勢の整備（再梱包、収納箱ラベルの更新等）

### ②刑事部門

ア 内藤家文書（近代史料、政道氏寄贈、近代寄贈）の整理  
イ 故里見庫男氏収集史料 駒込村（追加）文書の整理  
ウ マイクロフィルム等2次資料整理

### ③考古部門

ア 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備  
イ 茨城県玉里舟塚古墳・三昧塚古墳出土資料の整理  
ウ 収蔵資料の所在確認  
エ 矢島恭介資料の整理（点数・内容確認）

## (3) 資料記録

### ①撮影

今年度は実施せず

### ②デジタル化

ア 商品・刑事部門  
該当なし  
イ 考古部門  
旧石器～縄文時代遺跡発掘記録類のデジタルデータ化（博物館重点項目：「重要文化財を含む考古コレクションの多視点的アーカイブと国際発信」）

## (4) 資料利用

### ①資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	合計
一次資料 出品数	18点	724点	0点	742点
レプリカ等 出品数	0点	6点	0点	6点
撮 影	1,229点	25点	0点	1,254点
掲載等	622点	653点	4点	1,279点
合計	125件 1,869点	102件 1,408点	1件 4点	228件 3,281点

### 《参考》年度別資料利用数推移

	出展数（レプリカ内数）	撮影	掲載
2014	862 (12)	1,184	576
2015	595 (6)	885	472
2016	733 (28)	797	547
2017	655 (6)	654	467
2018	748 (6)	1,254	1,279

### ②収蔵資料閲覧

調 査 閲 覧	刑事部門		考古部門
	古文書	マイクロ	
	2,131点	137リール	27件
人 数	103名		

### 《参考》年度別資料閲覧数推移

	刑事			考古
	古文書（点）	マイクロ（本）	人数	件数
2013	3,858	137	182	68
2014	4,488	214	165	50
2015	3,913	269	254	35
2016	1,644	308	131	46
2017	1,106	596	105	45
2018	2,131	137	103	27

### ③貸出先・展覧会・出展資料一覧

#### ア 刑事部門

##### (ア) 品川区立品川歴史館

平成30年度特別展「明治維新一そのとき品川は一」  
会期：2018年10月7日～12月2日  
生麦之発殺 他 計2点

##### (イ) 行田市郷土博物館

第32回企画展「鷹狩と忍城」  
展示期間：2018年10月6日～11月25日  
天野彦八郎様御支配御鷹場村々地頭姓名村高控帳  
計1点

##### (ウ) 文京ふるさと歴史館

平成30年度特別展「ねこの細道 さんぽ道 ぶんきょう道中ひげ栗毛」  
会期：2018年10月20日～12月2日  
地方測量之図 計1点

- (エ) 練馬区立石神井公園ふるさと文化館  
平成30年度第2回特別展「激動の幕末 in 練馬」  
会期：2019年1月26日～3月17日  
薩州屋敷焼撃之図（慶応3年新徴組）他 計11点
- (オ) 安城市歴史博物館  
特別展「幕府崩壊—幕末維新を生きた地方の証言者たち—」  
展示期間：2018年11月24日～2019年1月14日  
内藤家文書 1-20-403（71）講武所槍術砲術銃隊拝見絵図 他 計2点
- (カ) 静岡市文化財資料館  
「今川義元の生涯」(展示, 展示パネル・周知用チラシ掲載)  
貸出期間：2019年4月22日～5月31日  
今川仮名目録 計1点
- イ 考古部門
- (ア) 東京国立博物館  
特別展「縄文—日本における美の誕生」(於パリ日本文化会館)  
会期：2018年10月17日～12月8日  
千葉県江原台遺跡出土山形土偶 計1点
- (イ) 古代オリエント博物館  
特別展「シルクロード新世紀展」  
会期：2018年9月29日～12月2日  
北海道白滝服部台遺跡出土細石刃核P-21 他 計12点
- (ウ) 岡山市立オリエント美術館  
特別展「シルクロード新世紀展」  
会期：2018年7月14日～9月9日  
北海道白滝服部台遺跡出土細石刃核P-21 他 計12点
- (エ) 岩宿博物館  
岩宿博物館2階常設展示室に展示  
展示予定期間：2018年6月12日～11月18日  
群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器 他 計39点
- (オ) 岩宿博物館  
岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「岩宿文化の地域性」のコーナーに展示）  
貸出期間：2018年7月1日～2019年6月30日  
群馬県武井遺跡出土石器 他 計330点
- (カ) 国立歴史民俗博物館  
国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室(先史・古代)(大テーマⅠ「最終氷期に生きた人々」・大テーマⅡ「多様な縄文列島」・大テーマⅢ「水稻耕作のはじまり」において展示)  
貸出期間：2018年7月30日～2019年3月31日  
長野県矢出川第1遺跡出土石器 他 計28点
- (キ) 港区立港郷土資料館・港区立郷土歴史館  
港区立港郷土資料館及び港区立郷土歴史館 常設展示  
貸出期間：2018年7月13日～2019年3月31日  
東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点
- (ク) 豊橋市美術館  
「とよはしの豪族—さとがえり・牟呂王塚古墳と姫塚古墳」展  
会期：2018年12月1日～2019年1月6日
- 愛知県姫塚古墳出土大刀① 他 計24点
- (ケ) 板橋区立郷土資料館  
企画展「再発見！いたばしの遺跡～いたばしの旧石器時代・縄文時代～」  
会期：2019年1月19日～3月24日  
東京都茂呂遺跡出土ナイフ形石器 他 計39点
- (コ) 国立歴史民俗博物館  
国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室(先史・古代)(大テーマⅠ「最終氷期に生きた人々」・大テーマⅡ「多様な縄文列島」・大テーマⅢ「水稻耕作のはじまり」において展示)  
貸出期間：2019年4月1日～2020年3月31日  
長野県矢出川第1遺跡出土石器 他 計28点
- (サ) 岩手県立博物館  
岩手県立博物館常設展示  
貸出期間：2019年4月1日～2020年3月31日  
岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点
- (シ) 市立市川考古博物館  
市立市川考古博物館常設展示  
貸出期間：2019年4月1日～2020年3月31日  
佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計80点
- ※2018年度中に手続きが終了したものを掲載
- ④その他の資料利用  
該当なし
- ⑤資料掲載利用一覧
- ア 刑事部門  
今川仮名目録 『歴史人』2018年6月号 ベストセラーズ  
内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 延岡城の現在の状況と有馬時代の状況を比較するCGを延岡市公式ホームページや市民フォーラム等で利用、「城山公園城跡景観等有識者会議」からの提言書に添付する資料として利用、延岡城の石垣マップを作成し見学用パンフレットとして配布、ホームページ掲載
- 『徳川幕府刑事図譜』 斬罪仕置の図 別冊 Discover Japan CULTURE 『江戸から明治維新に学ぶ武士道』 樞出版社
- 時世のぼり風 「2019—駿台 大学入試完全対策シリーズ 大学入試センター試験過去問題集 日本史B」 駿台文庫
- 今川仮名目録 表紙 他 「にっぽん！歴史鑑定」#96 『今川義元は本当に愚将だったのか？』(再放送) BS-TBS
- 武家諸法度 「歴史発見 城下町へ行こう！ #39 和歌山編」(再放送) 秋田ケーブルテレビ
- 帝都復興記念分間大江戸絵図(刑事部門所蔵・2007年度収集品) 外山徹「葵の祈禱所 紀伊徳川家と高尾山」15(『高尾山報』653号) 薬王院
- 生麦之発殺 他 『幕末維新の真実 教科書にはない消された歴史』 廣済堂出版

- 今川仮名目録追加 第6条 清水克行 岩波新書『戦国大名と分国法』(書籍・電子書籍) 岩波書店
- 今川仮名目録 『日本史で学ぶ経済学』 東洋経済新報社
- 高札 太政官札 キリシタン禁制(慶応4年) 2018年度後期(高3・高卒生対象)『日本史写真資料集』 河合塾
- 『徳川幕府刑事図譜』 大番屋下調の図 他「この差って何ですか?」 TBS テレビ
- 近衛砲兵暴発録の図 「広報おの」2018年9月号 小野市役所
- 生麦之発殺 他 平成30年度特別展「明治維新一そのとき品川はー」図録・広報物 品川区立品川歴史館
- 武家諸法度 「英雄たちの選択 参勤交代を緩和せよ!〜松平春嶽 幕政の根幹に物申す〜」 NHK BSプレミアム
- 『徳川幕府刑事図譜』 斬罪仕置の図 「日本人のおなまえっ!」 日本放送協会
- 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 小石川後樂園・六義園開園80周年記念講演会説明資料
- 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 『小石川後樂園得仁堂修理工事報告書』 東京都東部公園緑地事務所
- 禁中並公家中諸法度 『ビジュアル百科 写真と図解でわかる! 天皇<125代>の歴史』 西東社
- 内藤家文書 3-23-10-34-10-2 岩城平ノ絵図 『いわきレイラインハンティングパンフレット』 いわき観光まちづくりビューロー
- 図解五拾五ヶ條 「西郷どんスペシャル第三弾 西郷と大久保 明治に挑んだそれぞれの道」 NHK 総合・BSプレミアム
- 『徳川幕府刑事図譜』 斬罪仕置の図 「びったんこカン★カン」 TBS テレビ
- 『徳川幕府刑事図譜』 切腹の図 「100分 de 名著 新渡戸稲造“武士道”第2回 名誉・日本人の責任の取り方」 NHK オンデマンド
- 内藤家文書 3-23-11-35-5 延岡城下家中屋敷割図 他 『九州の城下町を古地図で歩く本』 河出書房新社
- 長宗我部氏掟書 第26条 『歴史道』 vol.1「戦国武将の家臣団 最強の法則」 朝日新聞出版
- 内藤家文書 「色々見聞したる事を笑ひに書」 講演会「延岡藩主夫人 内藤充真院の知的好奇心」配布資料 亀井の丘夢づくりの会
- 名和コレクション 江戸町奉行同心真鍮銀流し十手 他 「朝日新聞 夕刊(東京本社版)『私のイチオシコレクション』」 朝日新聞社
- 伏見関門口豊後橋進撃之図(慶応4年正月) 映画「峠最後のサムライ」 松竹 アスミック・エース
- 会津若松戦争之図 「フォーカス信州」 長野放送
- 出雲国島根郡末次町小豆沢家文書 2-書状-N-350 質入証文之事 松江市史編集委員会『松江市史通史編3近世I』 松江市
- 常設展示室 他 『千代田区観光バリアフリーガイドブック』 千代田区観光協会
- 駿河国有渡郡三保村三保神社文書 『駿河国有渡郡三保村三保神社文書』 静岡市役所文化財課
- 禁中並公家中諸法度 『ビジュアル百科 写真と図解でわかる! 天皇<125代>の歴史(電子書籍版)』 西東社
- 今川仮名目録 『「しずおか学」副読本』(冊子・データ) 静岡市
- 地方測量之図 2019年度版『社会4年デイリーサピックス 440-08』 日本入試センター
- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り) 他 『歴史道』 Vol.2 朝日新聞出版
- 『徳川幕府刑事図譜』 賭博の図 三河武士のやかた家康館企画展「古文書に見る岡崎人の事件記録」パネル展示
- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(十手の使用法) 他 ふるさと歴史講座「火付盗賊改 長谷川平蔵の生きざま」募集チラシ 中之条町立中央公民館
- 虎狼痴予防絵説 小島和貴『長崎偉人伝 長与専斎』 長崎文献社
- 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 他 『市内遺跡発掘調査報告書』 『延岡城内遺跡V(延岡城西ノ丸跡)発掘調査報告書』
- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り) 他 太田記念美術館監修『悪人的美術・浮世繪』 究意出版社 股份有限公司
- 出羽国村山郡観音寺村(岡田家)文書 東北芸術工科大学卒業/終了研究・制作展で展示
- 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 延岡城内に設置予定の石垣説明板に利用
- 『徳川幕府刑事図譜』 「Bound」 海外ドキュメンタリー映画祭エントリー
- 地方測量之図 他 NHK デジタル教材「NHK for school」
- 薩州屋敷焼撃之図(慶応3年新徴組) 『見るだけ日本史年表』 宝島社
- 清朝刑罰図譜 他 「Meiji Asian Studies ホームページ」 明治大学文学部
- 板倉家文書 「亀山市史」ウェブ版 亀山市
- 『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図 他 『一個人 5月号』 KK ベストセラーズ
- 内藤家文書 1-11-72-3 日記 内藤政義自筆 他 『宮崎公立大学人文学部紀要』 第26巻第1号 宮崎公立大学
- 内藤家文書 1-4-553-1 御仏像帳, 岩城時代御所蔵仏録 他 渡邊亜貴「仏師玄慶について」(奈良大学卒業論文)
- 地方測量之図 小学校社会科教科書『新しい社会6 歴史編』(通常版・拡大版・デジタル版) および教師用指導書 東京書籍
- 『徳川幕府刑事図譜』 縄の掛け方の種類 「出川と WHY ガール」 テレビ朝日
- 名和コレクション 鎖鎌(石見守直次作) ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」
- 『徳川幕府刑事図譜』 斬罪仕置の図 他 「にっぽん! 歴史鑑定」#61 『高橋お伝は毒婦だったのか?』(再放送) BS-TBS



イ 考古部門

**福岡県板付遺跡出土土壺土器** 『2018 年度 メインレッスン 社会 8月号 中1 共通 U8 古代までの日本1, 2』(デジタル教材) ベネッセコーポレーション

**福岡県板付遺跡出土土壺形土器** 『2018 年度 夏の特別 Challenge 中1 8月号』ベネッセコーポレーション

**愛知県五貫森貝塚出土打製石斧 他** 『THE カコモン』(塾用問題集) 学書

**東京都板橋区稲荷台遺跡出土稲荷台式土器** 『板橋マニア 板橋好きが案内する板橋まちガイド』フリックスタジオ

**群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧 他** 『中学受験コース 5年生 6月号』(デジタル教材) Z会

**群馬県武井遺跡出土尖頭器** 『高校入試一問一答 社会』学研プラス

**栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器** 『中学歴史がちゃっかり学べる4コマ教室』学研プラス

**愛知県五貫森貝塚出土打製石器 他** 『Ⅱ期ゼミテキスト 中1 社会』学書

**群馬県岩宿遺跡出土岩宿遺跡Ⅰ石器文化の石器 他** 『利根郡川場村誌』群馬県利根郡川場村

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他** 『2018 年度夏期講習(高3・高卒生対象)「関関同立大日本史」』河合塾

**青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶** 『2018 年度夏期講習(高3・高卒生対象)「日本史集中講義(古代～中世)」』河合塾

**スイス・フォーレルゼー湖上住居出土把手付土器** 『特別展 縄文 展示図録』東京国立博物館

**千葉県姥山貝塚における人骨出土状況** 『縄文人の死生観』(紙版および電子版) 角川ソフィア文庫

**福岡県板付遺跡出土土壺型土器** 『2018 年度 中2 5教科要点まとめ事典 8月号』ベネッセコーポレーション

**福岡県板付遺跡出土土壺型土器** 『2018 年度 進研ゼミ中高一貫講座 中1Challenge 英数国理社 8月号』ベネッセコーポレーション

**茨城県玉里舟塚古墳後円部の埋葬施設 他** 平成30年テーマ展Ⅰ「三味塚古墳出土資料 国重要文化財指定記念 三味塚古墳と舟塚古墳」パネル 茨城県立歴史館

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 特別展「縄文—日本における美の誕生」展示図録および広報媒体 東京国立博物館

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 『月刊 東京人 2018年 8月号』都市出版

**常設展示室考古部門 他** フェイスブック「文化遺産の世界」国際文化財

**常設展示室考古部門** 「土偶ミステリー～日本最古のフィギュア その謎に迫る～」NHK

**常設展示室考古部門** 縄文遺跡ツアー「特別展『縄文—1万年の美の鼓動』鑑賞と東京都の縄文を観る」パンフレット シーピーツアーズ

**東京都新島田原遺跡調査時写真 他** 東京都埋蔵文化財センター講演会上映資料

**神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器** 『8月ゼミ 小6 社会』塾用プリント ティエラコム

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器** 『平成30年度 ウィニングウインタープラス1年(社会)』好学出版

**岩手県雨滝遺跡出土石匙 他** 『2018 代ゼミ大学入試センター試験直前予想問題(日本史B)』代々木ゼミナール

**青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他** 『改訂版4ステージ演習ノート 日本史B』数研出版

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 『Discover Japan vol.83』榎出版社

**青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶** 『佐鳴予備校「Perfect!」愛知県版』(塾用問題集) 学書

**「火竟」銘倣製鏡 新井悟** 『古鏡のひみつ「鏡の裏の世界」をさぐる』河出書房新社

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『2018 年度 考える力・プラス中学受験講座 6年生 中学入試合格テキスト 1月号 共通』ベネッセコーポレーション

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 「開運!なんでも鑑定団」テレビ東京

**岩手県雨滝遺跡出土石匙 他** 『2018 2学期 センター試験テスト演習(日本史B)』代々木ゼミナール

**ガウランド撮影 奈良県四条塚山古墳(綏靖天皇陵) 他** 今尾文昭『天皇陵古墳を歩く』朝日新聞出版

**神奈川県大和市月見野遺跡調査費内訳 他** 神奈川県考古学会第26回考古学講座「月見野遺跡群発掘調査から50年」(講座資料) 神奈川県考古学会

**静岡県登呂遺跡発掘調査写真(昭和22年～25年撮影)** 企画展『平成×登呂』展示パネル 静岡市立登呂博物館

**群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器 他** 『小学パーフェクトコース?に答える!小学社会 改訂版』学研プラス

**青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶** 『2018 年度冬期講習(高3・高卒生対象) 日本史集中講義(古代～近世)』河合塾

**群馬県岩宿遺跡発掘風景写真** 佐藤信『日本古代の歴史6 列島の古代』吉川弘文館

**茨城県法堂遺跡出土製塩土器** 田邊えり「関東地方における縄文土器製塩の再検討—付着物質の観察と分析—」(『筑波大学 先史学・考古学研究』第30号) 筑波大学考古学フォーラム

**東京都利島大石山遺跡出土石皿・すり石 他** 「2018 年度 全統マーク高2 模試問題 地理歴史『日本史B』」河合塾

**千葉県法皇塚古墳の石室内遺物出土状況** 市川市史第3巻 編集委員会『市川市史』(3巻「まつりごとの展開」) 市川市

**群馬県岩宿遺跡発掘調査風景写真** 『広報みどり』12月号 みどり市

**青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他** 『Ⅲ期ゼミテキスト 中1 社会』学書

**栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器** 『Ⅲ期ゼミテキスト

- ト 小6社会』学書
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 定期テスト暗記BOOK/5月号/442/歴史』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 定期テスト楽暗記アプリ(デジタル教材)/5月/共通/歴史』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 定期テスト暗記BOOK/特別号/5月号/442/歴史』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 メインレッスン社会(デジタル教材)/4月号/442/歴史/歴史の流れ 古代までの日本1』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 中1記述力UPドリル 社会VOL.1/4月号/共通タイプ/古代 古代までの日本(1)』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 中2記述力UPドリル 社会VOL.1/4月号/共通タイプ/古代 古代までの日本(1)』 ベネッセコーポレーション
- 京都府深草遺跡出土石包丁 他 『2019年度 Challenge社会/4月号/共通タイプ/古代 古代までの日本(1)』 ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2018年度中学(中1生対象)歴史I』 河合塾
- 愛知県五貫森貝塚出土磨製石器 『さなる式 歴史I』(塾用問題集) 学書
- 群馬県岩櫃山山頂に立つ杉原荘介写真 企画展『登呂をとめ安倍をとこ』展示パネル 静岡市立登呂博物館
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度中2 5教科パーフェクト事典/4月号/共通タイプ』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度中2 5教科パーフェクト事典プラス/4月号/共通タイプ』 ベネッセコーポレーション
- 神奈川県夏島貝塚貝層断面写真 文化財講座「夏島貝塚物語 東京湾の海域環境の変遷と貝塚の形成」チラシ 公益財団法人横須賀市生涯学習財団・横須賀市教育委員会
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 『基本のキ 歴史I』(塾用テキストおよびタブレット版) 学書
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 「開運!なんでも鑑定団」(再放送) テレビ東京
- 神奈川県夏島貝塚出土撚糸土器 国立歴史民俗博物館・藤尾 慎一郎『再考!縄文と弥生—日本先史文化の再構築—』吉川弘文館
- 青森県砂沢遺跡出土高坏 他 「青森県史デジタルアーカイブス」青森県
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 他 『I期ゼミテキスト 中1社会』学書
- 京都府深草遺跡出土石包丁 『金沢大学附属高校OP 模試 塾用模試』みらい教育ラボ
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2019年度I期(高2生対象) 高2日本史』河合塾
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2019年度基礎シリーズ(高卒生対象) 私大日本史テスト』河合塾
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2019年度前期(高3・高卒生対象) 日本史写真資料集』河合塾
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2018年度 新中1 3月5信ダイレクトメール保護者向け冊子』ベネッセコーポレーション
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『2019年度I期(高2生対象) 高2日本史』河合塾
- 群馬県岩宿遺跡岩宿I石器文化石器 他 クリアファイル「岩宿石器」岩宿博物館
- 茨城県ひたちなか市虎塚古墳第1次調査写真 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター標本陳列室にて写真を掲示
- 群馬県岩宿遺跡出土石斧 『大学入試シリーズ 関西大学(法学部・文学部・商学部・政策創造学部・総合情報学部一学部個別日程 2020年版) 教学社
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 『小学実力錬成テキスト エフォート B』文理
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 入試によく出る基礎 社会/7月号/県別共通/レベル共通』ベネッセコーポレーション
- 愛知県五貫森貝塚出土磨製石斧 『2019 Spring Study』(塾用テキスト) 創造学園
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景写真 『東国文化ガイドブック』群馬県
- 京都府深草遺跡出土石包丁 『2019年度 第1回全統マーク模試問題 地理歴史「日本史B」』河合塾
- 京都府深草遺跡出土石包丁 『2019年度 第1回全統マーク模試問題 地理歴史「日本史B」』河合塾(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」に掲載)
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 「河合塾 日本史テーマ別解説授業映像(仮)(河合塾 e-learning システム内 日本史映像コンテンツ)」河合塾
- 栃木県篠山貝塚出土縄文土器(前期) 佐藤信『図説 歴史散歩事典』山川出版社
- 茨城県舟塚古墳二重石棺埋葬施設出土状況写真 他 舟塚古墳現地説明板 小美玉市教育委員会
- 群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧 他 中学受験コース『エブリスタディ アドバンス小5』6月号 社会 Z会
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2019年度 考える力・プラス中学受験講座 5年生 中学入試授業テキスト/8月号/共通/』ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡出土岩宿I石器文化の石器写真 『ホープ小6』育伸社
- 群馬県岩宿遺跡出土岩宿I石器文化の石器写真 『シリウス歴史I』育伸社
- 群馬県岩宿遺跡出土岩宿I石器文化の石器写真 『アドバンスI』育伸社
- 群馬県岩宿遺跡出土岩宿I石器文化の石器写真 『iワーク 歴史I』育伸社
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 『旅の手帖』6月号(第2

特集「縄文トリップ」 交通新聞社

ウ 商品部門

常設展示室 商品部門 「田中・ねむのひらめけ! デンキッ  
キ」 KawaiianTV

(5) 図書

①蔵書数

図書	全所蔵冊数	(冊)	123,395
	和	(冊)	92,416
	洋	(冊)	1,239
	製本雑誌	(冊)	29,740
雑誌	全所蔵冊数	(タイトル)	2,995
	和	(タイトル)	2,942
	洋	(タイトル)	53

②購入・寄贈数

ア 図書受入数

総受入冊数		(冊)	1,900
図書受入冊数 ※製本雑誌を含む	購入	和	(冊) 68
		洋	(冊) 0
	寄贈	和	(冊) 1,811
		洋	(冊) 21

イ 雑誌継続タイトル数

総受入種類数		(タイトル)	336
雑誌受入種類数	和	(タイトル)	334
	洋	(タイトル)	2

※ 2015年度統計より、図書館蔵書システムからの出力による数値を使用

## V 統計・一覧・資料

### 1 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア 休館日 2018年8月10日～16日／8月19日臨時休館／12月26日～2019年1月7日

※ 2019年1月7日に図書室のみ開室

イ 開館時間 10時～17時

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	30	31	30	31	23	30	31	30	25	24	28	31	344

エ 月別入館・利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展示室	5,327	6,239	6,138	6,104	5,541	5,047	6,807	6,961	4,184	3,673	3,615	4,743	64,379
特別展示室	2,297	2,610	2,068	2,983	1,761	1,402	1,768	2,537	392	0	0	831	18,649
図書室	299	513	669	634	320	454	829	785	584	282	137	224	5,730
教室等利用	347	306	322	337	148	279	426	384	292	334	289	316	3,780
計	8,270	9,668	9,197	10,058	7,770	7,182	9,830	10,667	5,452	4,289	4,041	6,114	92,538

《参考》年度別入館・利用者数

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2004～2018
常設展示室	46,059	42,333	42,632	43,331	63,036	64,379	670,566
特別展示室	21,057	16,937	18,755	23,409	29,145	18,649	275,385
図書室	5,621	5,476	5,321	5,316	4,851	5,730	77,102
教室等利用	2,254	3,203	3,334	3,426	3,160	3,780	27,851
計	74,991	67,949	70,042	75,482	100,192	92,538	1,050,904



## ②特別展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究	2018年10月13日～12月2日	51日間	4,754名

## ③主催・共催展・その他の展覧会入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
アンコール展示 十手と錦絵―描かれた捕者の世界	2018年3月10日～4月8日	30日間	2,856名
新収蔵・収蔵資料展 2018	4月13日～5月6日	24日間	2,244名
明大考古学の過去・現在・未来 ―モノ学のその先へ―	5月21日～6月21日	32日間	4,022名
ボアソナードとその教え子たち	7月7日～8月5日	30日間	3,866名
地方創生の機運 ―1970～80年代の伝統的工芸品収集―	8月22日～9月18日	28日間	2,280名
新収蔵・収蔵資料展 2019	2019年3月23日～4月21日	30日間	2,605名

## (2) 団体見学

## ①月別集計一覧

## ア 学校団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	10	23	28	13	3	15	29	17	17	14	16	5	190
人数	142	288	732	417	34	465	907	271	470	271	209	78	4,284

## イ 一般団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	5	9	12	10	4	13	19	19	6	10	13	8	128
人数	54	117	262	125	73	221	398	379	79	159	248	122	2,237

## 《参考》団体見学数の推移

学校団体	2013	2014	2015	2016	2017	一般団体	2013	2014	2015	2016	2017
団体数	50	47	58	58	87	団体数	54	54	65	60	89
人数	1,352	1,310	1,852	1,848	2,436	人数	1,094	1,448	1,541	1,387	2,630

## ②団体一覧

## 2018年

## 4月

ピーチ会、イトーヨーカドーカルチャーグループ「山手線から歩きの会」、歩こう会、生涯現役ときわ会 歴史愛好会、弥栄会、湘南工科大学附属高等学校、千葉市さくらの会、埼玉県立吉川美南高等学校 2年次、八千代松陰高等学校 3年生、石巻市立桃生中学校 3年生、北海道恵庭市立恵明中学校 3年生、音更町立下音更中学校 3年生、横浜清風高等学校 歴史研究同好会、石巻市立河南東中学校、神奈川県立旭高等学校、相洋高等学校社会部

## 5月

青山学院大学法学部 安部ゼミナール（刑事法）、神奈川県立川和高等学校、横手市立平鹿中学校、仙台市立富沢中学校、東京都立小平高等学校、四歩の会、三田国際学園高等学校、松坂市立飯高中学校、大正大学考古学研究会、福崎町立福崎東中学校、亘理町立亘理中学校、大崎市立古川東中学校、仙台市立田子中学校、ねりん大学OB会、横浜市立上永谷中学校、ナンヤン理工大学、おいらく山岳会、与謝野町立江陽中学校、朝霞稲門会、北大教養クラス会、犬吠会、埼玉県立杉戸高等学校、ところざわ倶楽部 野老澤の歴史をたのしむ会、福井市鷹巣中学校 3年生、文化服装学院、船橋市民大学 ロッケン会、小樽市立朝里中学校、四日市市立中部中学校 3年生、有明会、樹徳中学校・高等学校一貫コース 5年生、栃木県立鹿沼東高等学校、東洋高等学校

## 6月

埼玉県立松山女子高等学校、カレッジ12、明治大学付属明治高等学校、早稲田中学・高等学校歴史研究部、昌平高等学校 1年5組、長久手市立南中学校、名古屋市立猪子石中学校、上尾市立大石中学校、西尾市立西尾中学校、桑名市立光風中学校、柏南交友会、明治大学情報コミュニケーション学部 横田ゼミ、水戸葵陵高等学校特進Iコース 2年生、まつど史跡探勝会、東京学館新潟高等学校 2年生、所沢市歴史探訪会、岡崎市立甲山中学校、世田谷区老人大学グループ 2P文A会、美浜町立野間中学校 3年生、埼玉県立草加高等学校PTA、東京保護観察所、柏市立手賀中学校、川崎市立川中島中学校 2年生、横浜市老人会（四つ葉会）、香川県立高松桜井高等学校、よみうりカルチャー、青丘学

院つくば中学校, エリート日本語学校, 岡山県立岡山城東高等学校, 千葉県生涯大学校福祉科OB会, 東京都立美原高等学校 2年生, KTC おおぞら高等学院, 東京法律専門学校, 大田原市立若草中学校, 岡山県立津山東高等学校, 公益社団法人上野法人会, 共立日語学院, 慶應義塾大学大学院法務研究科, 生涯大学校あるこう会, 川崎市立向丘中学校 2年生

**7月**

台湾貿易センター東京事務所, 都内俳句の会, 茨城県立水戸桜ノ牧高等学校, 明大昭和39年卒学生経営経済学研究会, 潮来市立潮来小学校PTA, 新潟産業大学附属高等学校 2年生, 茨城県立石岡商業高等学校 2年生, 星野高等学校 2年生, 上尾・古河カルチャーセンター, 追手門学院中・高等学校, 大原学園高等学校 2年生, 世田谷区生涯大学同窓会, 東京都立桜町高等学校 2年生, 中国成都市学生一行, 東京都立昭和高等学校 2年生, 船橋市民大学 ロッケン会, おっぱま はっけん倶楽部, 三木会, サンパウロ大学, 神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校, 中国電子科技大学, 株式会社シーピーツアーズ, 明治大学附属中野高等学校 1年生

**8月**

八王子市立第一中学校 2年生, 東京都葛飾区立青戸中学校 歴史文芸部, 播与漆工芸教室 柴田組, 小平市シルバー大学25期会, 北京外国語大学学生訪問団, 文京区立金富小学校 校内人権研修, 燕市議会 スワロークラブ 大河の会

**9月**

「日中植林・植樹国際連帯事業」清華大学学生訪日団第2陣, 高崎健康福祉大学高崎高等学校 1年生, 山形県南陽市立宮内中学校 3年生, 一声会, 神戸学院大学法学部 佐藤ゼミ, 長野県上田高等学校 2学年, 武蔵村山市立第三中学校, 新宿区立新宿西戸山中学校, 品川区ウォーキンググループ プラタナス, 赤羽電気愛交會, 現代社会34歩行会 よみうり川越カルチャー 古地図散歩, 楽歩会, いきが大学埼玉, 明治大学商学部, お茶の水管弦楽団, 文理開成高等学校, NEC ソリューションイノベータ, 明治大学経営学部 小関ゼミ, 鳥取大学, 茅ヶ崎 茅友会, 東京都立神津高等学校 1年生, サロン話の泉, アウグスブルク大学 法科専攻, 大田区立大森東中学校 2年生, 神奈川県立七里ガ浜高等学校 2年生, 日本ジョージア会, 常磐大学高等学校PTA

**10月**

新潟県立新発田高等学校, 長野県上田染谷丘高等学校 1年生, 栃木県立栃木翔南高等学校PTA, 明治学院中学校, 茨城県立水戸商業高等学校, 船橋市民大学八・二会, 大東文化大学博物館展示論履修生, 東京漫歩, 群馬県立桐生高等学校PTA, アジア航測株式会社OB会, 千葉県立東金高等学校 1年生, 栃木県立佐野東高等学校 2年生, 日出高等学校 2年生, 茨城県立太田第一高等学校 1年生, 長野県松本蟻ヶ崎高等学校, 広島県立広島皆実高等学校, 群馬県立前橋東高等学校 1年生, 掘船研究会, 真宗大谷派北海道教区死刑制度問題班, 神田交通ユーバス旅行会, 明治大学文学部 江川ゼミ, 毎日文化センター, 茨城県立水戸第二高等学校, 高崎市立高崎経済大学附属高等学校, サクサ社友会目黒支部, 獨協埼玉中学校, 足立歴史サークル, 富山県立富山南高等学校, お散歩だんらんの会, 茨城県立中央高等学校 1年生, 練馬区立開進第三中学校 1年生, 千葉県立銚子高等学校 1年生, 千葉県立佐原高等学校 1年生, 新老人の会, 埼玉県立川口高等学校, 早稲田EDU日本語学校, 茨城県立水海道第一高等学校 1年生, 世田谷生涯大学ハッピー35, 西武台千葉高等学校, 東邦大学附属東邦中・高等学校, 葛飾区郷土と天文の博物館 考古学ボランティア, 船橋市民大学Wクリック, 長野県長和町公民館明大キャンパスツアー, 神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校PTA, 明治大学 村田ゼミナール, 中友会(東京都公立中学校退職校長の会), 茨城県立取手松陽高等学校 1年生, 武蔵野学院大学 鈴木ゼミ

**11月**

いちなな会, 美浜セカンドステージの会, 武蔵野大学附属 千代田高等学院, 千葉県立安房高等学校, 水戸女子高等学校 1年生, TCGC東京シティガイドクラブ, 全日本年金者組合所沢支部, 川口地区保護司会研修部, 文教大学国際学部 井上ゼミ, スクールFC お茶の水校, 鎌倉親幕府の会, ふれあいウォーカーズ, 浜松修学舎高等学校夢みらい科 1年生, 町田国際版画美術館友の会, 茂原北稜高等学校 1年生, 立教新座中学校, 上智大学法学部 刑法ゼミ, 練馬区武蔵関トリム体操会, カルソニックカンセイ シニアーズクラブ, 青山学院大学法学部同窓会, 瀧野川女子学園高等学校 2年生, 駒澤大学文学部歴史学科考古学専攻, 明治大学文学部史学地理学科アジア史学専攻, 会津若松法人会 女性部会, 高崎市立箕郷中学校, お茶の水女子大学, 上高津貝塚土器づくりの会, 健寿会, 歩行会29, 日本考古学協会 フレンドシップ会員, 株式会社オカムラ, 府中市立府中第八中学校, 足立区立谷中中学校 2年生, 北区立滝野川紅葉中学校 1年生, 悠遊会, 明治大学政治経済学部 小西徳應ゼミナール

**12月**

茨城県立石岡第一高等学校 1年生, 手島会, 明治大学商学部 三上富三郎ゼミ10回生, 鹿児島高等学校 2年生, 戸田市立新曾中学校 2年生, 大阪府立寝屋川高等学校 2年生, 明治大学大学院政治経済学研究科 石川研究室, 練馬区立石神井東中学校 2年3組4班, 江東区立深川第五中学校, 東京都立武蔵丘高等学校 1年生, 富山第一高等学校, 鷺宿平成クラブ, 大妻中学高等学校, 群馬県立太田高等学校, 歩こう会, 岡山県立和気閑谷高等学校, 駒沢学園女子高等学校 1年生, 日本史を楽しむ会, 京都文教大学, バンタンゲームアカデミー ノベル・シナリオ専攻, ウォーキング東京都, 大成高等学校, 太田市立太田高等学校

## 2019年

## 1月

サードライブの会, 駒澤大学文学部, 清真学園高等学校 地歴部, 板橋料好会, お茶の水女子大学 文教育学部 考古学通論2, 栃木県佐野市立出流原小学校, 瀧野川女子学園高等学校, 北部一心会, HCC, 船橋マスター学院 (10期), 熊本市立必由館高等学校 1年生, レガルの会, 高知県立梶原高等学校 2年生, 川崎市立金程中学校 2年生, コーラウォーク, 法政大学第二高等学校 3年生, 川崎市立中原中学校, 渡辺圭三写真講座, 茨城県立大洗高等学校, フォーラム75, 松戸の会, 山東省中小生読書会, 東村山市立東村山第二中学校, 埼玉県立伊奈学園総合高等学校

## 2月

昭和女子大学, 国分寺市立第三中学校, 江東区立辰巳中学校, 葛飾区立立石中学校, 新宿区立西早稲田中学校, 松戸市小金原6丁目7番小金原住宅組合老人会 ふれあい歩こう会, 岩井第二分館, 学校法人早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校, 大田区立田園調布中学校, 東京都若者社会参加応援事業 バナナポート, 東大和市立第二中学校, 足立区立伊興中学校, 江戸川区立篠崎中学校, 東京電機大学, 彩の国いきがい大学 史跡めぐりクラブ, 悠遊会, 明治大学附属明治中学校, 領家ウォーキングクラブ, 加須市立北川辺中学校 2年生, 静岡商業高等学校同窓会関東支部女子同好会 SCあじさい, 生き生きセミナー 五期会, 三郷市立瑞穂中学校 2年生, 日野市立日野第二中学校, 健康づくりウォーキングクラブ, アメンボの会, さいたま市立大宮西中学校 1年生, 武蔵野女子学院高等学校 1年生, 明治大学小平支部OB会, 朝日アウトドア教養講座

## 3月

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校 3年生, 四三会, 常磐大学高等学校, 地名研究会, 学習院中等科 歴史研究部, 医療法人社団利田会 周愛巣鴨クリニック, 小浜市立小浜中学校, 駒場東邦高等学校, 歩歩歩会, 気まま会, 第15分団31部, 年金者組合安房支部 観館くらぶ, 裁判所退職者の会

## (3) 視察・研修受入

## ①受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	2	—	—	1	1	1	—	1	—	1	—	—	7
人数	7	—	—	2	4	10	—	2	—	6	—	—	31

## ②団体名一覧

花巻市立東和中学校 3年2組5班研修 (4月11日), 東京都立葛飾総合高等学校研修 (4月13日), 東京都立大泉高等学校附属中学校職場体験 (7月10日~12日), 法政大学第二高等学校研修 (8月7日), 南山大学見学実習 (9月10日), 東京都立白鷗高等学校附属中学校職場体験 (11月6日~8日), 東村山市立東村山第三中学校研修 (2019年1月24日)

## (4) 図書閲覧サービス

## ①図書開室時間 月~土曜日 10:00~16:30

## ②閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生													
大学院生	144	322	483	426	186	275	618	494	365	150	40	86	3,589
明大教職員	10	12	7	13	6	4	11	13	6	10	4	6	102
友の会	39	40	40	50	17	36	38	35	22	31	26	26	400
リバティアカデミー会員	4	9	7	8	7	4	6	8	9	4	7	4	77
聴講生	1	6	4	3	0	1	3	4	2	1	0	0	25
校友	33	18	25	23	8	20	26	25	9	8	14	18	227
他大学学生	30	41	49	54	60	82	81	155	125	40	13	27	757
一般	35	51	40	46	30	30	38	41	34	29	30	42	446
明大その他	3	14	14	11	6	2	8	10	12	9	3	15	107
合計	299	513	669	634	320	454	829	785	584	282	137	224	5,730
開室日数	24	24	26	26	18	21	27	23	20	21	23	25	278
1日平均(人)	12.5	21.4	25.7	24.4	17.8	21.6	30.7	34.1	29.2	13.4	6.0	9.0	20.6



## 2 組織・構成

### (1) 博物館構成員

#### ①館長・副館長

任期：2018年4月1日～2020年3月31日

役職	氏名	所属	専門
館長	井上崇通	商学部教授	マーケティング論・消費者行動論
副館長	落合弘樹	文学部教授	日本近代史(幕末維新史)

#### ②専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会連携部長	菊池亮一		
博物館事務長	小澤芳明		
学芸員	外山徹	商品・刑事部門	博物館学／地域文化論
学芸員	島田和高	考古部門	旧石器時代
学芸員	日比佳代子	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那敬三	考古部門	弥生・古墳時代

#### ③非常勤職員

	氏名	担当
派遣職員	岡本依子	広報・庶務担当
短期嘱託職員	織田潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	久保田惟子	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	林田真由子	商品部門担当
短期嘱託職員	勝見知世	刑事部門担当
短期嘱託職員	海沼真澄	考古部門担当
短期嘱託職員	川嶋陶子	
短期嘱託職員	杉本茉織 ※2018年8月～	アーカイブ管理担当

### (2) 博物館運営委員会

#### ①運営委員

任期：2017年4月1日～2019年3月31日

委員長	井上崇通	館長／商学部教授
副委員長	落合弘樹	副館長／文学部教授
	小林史明	法学部専任講師
	菊池一夫 ※2018年4月1日～	商学部教授
	矢島國雄	文学部教授
	阿部芳郎	文学部教授
	野尻泰弘	文学部准教授
	若狭徹	文学部准教授
	本多貴之	理工学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	須田努	情報コミュニケーション学部教授

	菊池亮一	学術・社会連携部長
	外山徹	博物館学芸員
	島田和高	博物館学芸員
	日比佳代子	博物館学芸員
	忽那敬三	博物館学芸員

#### ②資料評価分科会

任期：2017年6月23日～2019年3月31日

座長	氏名	所属
	野尻泰弘	文学部准教授
	菊池一夫 ※2018年7月3日～	商学部教授
	若狭徹	文学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授

### (3) 研究調査員

任期：2018年4月1日～2019年3月31日

高橋昭夫	商学部教授(商品学)
福田康典	商学部教授(市場調査論)
上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
劉亜氷	商学部助教(マーケティング企画)
牛米努	文学部兼任講師 税務大学校租税史料室
金子智	株式会社乃村工藝社
山路直充	研究クラスター・日本古代学研究所研究分担者 市立市川考古博物館学芸員

### (4) 各作業部会

#### ①博物館・大学院商学研究科・商学部連携

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

#### ◎は博物館運営委員

座長	氏名	所属	
	高橋昭夫	商学部教授(商品学)	
	菊池一夫	商学部教授(商業経営論)	◎
	福田康典	商学部教授(市場調査論)	
	上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授	
	劉亜氷	商学部助教(マーケティング企画)	
	外山徹	博物館学芸員	

### (5) 明治大学博物館友の会 2018 年度役員

相談役	井上崇通	落合弘樹	
顧問	大塚初重	熊野正也	杉原重夫
会長	鈴木弘		
副会長	野口淳	平井孝雄	
理事	巖俊夫 (総務)	橋本秀夫 (行事)	村井孝行 (会計)
	新井正子 (行事)	林信雄 (広報)	宮城正 (総務)

運営委員 (総務)	大島 淑子	菅田 路子	
〃(会計)	古沢 芳枝		
〃(行事)	松村 祐安	桐生 邦子	
〃(広報)	望月 桂一郎		
〃 (図書室管 理員副代 表)	新井 正子		
〃 (展示解説 員副代表)	渡辺 やす子		
図書室管 理員代表	木戸 孝義		
展示解説 員代表	林 信雄		
監事	支倉 紀代美	松本 慶三	
分科会	古文書を読む会	高橋 幸子	
	平成内藤家文書研究会	山本 康夫	
	工芸の会	平井 孝雄	
	旧石器・縄文文化研究会	杉山 昭	
	弥生文化研究会	磯辺 隆信	
	古文書の基礎を学ぶ会	平井 孝雄	
	東アジアの中の古代日本研 究会	山本 廣一	
	前方後円墳研究会	磯辺 隆信	
	「倭国から大和」を学ぶ会	村井 孝行	
	古代東北アジアと日本研究会	遠藤 典夫	
	飛鳥・藤原を学ぶ会	荒木 茂	

**(6) 各種会議開催日**

## ①博物館運営委員会

2018年6月22日・10月23日・2019年3月25日

## ②資料評価分科会

2018年11月30日

## ③博物館・友の会連絡会議

2018年5月25日・9月14日・11月30日・2019年2月22日

### 3 予算・決算

#### (1) 2018年度事業費予算・決算

予算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
			特別展	大学博物館 交流事業	山陰地方 伝統工芸	ICT ミュージアム	
兼務職員人件費	1,055,000	0	0	0	0	0	1,055,000
福利費	14,000	0	0	0	0	0	14,000
修繕費	50,000	0	0	0	0	0	50,000
旅費交通費	921,000	0	3,150,000	196,000	483,000	0	4,750,000
業務委託費	1,366,000	0	2,200,000	0	21,000	1,050,000	4,637,000
保険料	221,000	0	500,000	0	0	0	721,000
準備品	396,000	0	0	0	0	275,000	671,000
その他の消耗品費	1,458,000	0	200,000	5,000	0	0	1,663,000
印刷製本費	1,594,000	0	1,700,000	77,000	0	0	3,371,000
郵便費	0	0	0	0	0	0	0
運搬費	40,000	0	5,000,000	378,000	0	0	5,418,000
広告費	120,000	0	300,000	0	0	0	420,000
支払手数料	97,000	0	450,000	56,000	28,000	0	631,000
賃借料	0	0	1,000,000	0	0	0	1,000,000
会合費	96,000	0	0	0	0	0	96,000
公租公課	34,000	0	0	0	0	0	34,000
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	0
教育研究用機器備品費	4,465,000	0	0	0	0	0	4,465,000
図書費	100,000	0	0	0	0	0	100,000
合計	12,027,000	0	14,500,000	712,000	532,000	1,325,000	29,096,000
前年度予算額	12,027,000	360,000	5,766,000	712,000	532,000	1,325,000	20,362,000
増・減 (▲)	0	▲ 360,000	8,734,000	0	0	0	8,734,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない  
 ※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない



## 決算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
			特別展	大学博物館 交流事業	山陰地方 伝統工芸	I C T ミュージアム	
兼務職員人件費	323,910	0	0	0	0	0	323,910
福利費	11,640	0	0	0	0	0	11,640
修繕費	64,800	0	0	0	0	0	64,800
旅費交通費	451,338	0	990,033	154,833	461,156	0	2,057,360
業務委託費	2,051,927	0	4,216,831	0	19,008	797,040	7,084,806
保険料	143,000	0	41,359	7,020	0	0	191,379
準備品	1,263,550	0	0	0	0	0	1,263,550
その他の消耗品費	2,962,787	0	516,342	7,560	0	7,560	3,494,249
印刷製本費	1,880,586	0	1,659,918	6,938	0	0	3,547,442
郵便費	3,043	0	27,045	0	0	0	30,088
運搬費	59,097	0	4,142,027	451,440	0	0	4,652,564
広告費	154,691	0	74,977	0	0	0	229,668
支払手数料	484,368	0	525,645	0	30,000	0	1,040,013
賃借料	0	0	1,479,624	0	0	0	1,479,624
会合費	88,865	0	71,388	0	0	0	160,253
公租公課	30,200	0	0	0	0	0	30,200
教) 雑費	0	0	9,000	0	0	0	9,000
教育研究用機器備品費	1,474,200	0	0	0	0	291,600	1,765,800
図書費	43,560	0	0	0	0	0	43,560
合計	11,491,562	0	13,754,189	627,791	510,164	1,096,200	27,479,906
前年度決算額	11,491,531	0	5,784,183	549,471	511,845	1,323,000	19,660,030
増・減(▲)	31	0	7,970,006	78,320	▲ 1,681	▲ 226,800	7,819,876

※予算額を越える執行は年度途中に予算振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

## (2) 2018年度収入

科目:その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	469,465
公開講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	39,510
撮影・掲載料	200,000	572,400
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	450,000	519,600
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	10,000	645,590
その他	10,000	82,712
合計	1,280,000	2,329,277
前年度予算決算額	1,280,000	1,930,392
増・減(▲)	0	398,885

科目:その他の補助金収入(教育活動)	予算額	決算額
芸術文化振興基金補助金	0	1,982,000
合計	0	1,982,000
前年度予算決算額	0	0
増・減(▲)	0	1,982,000

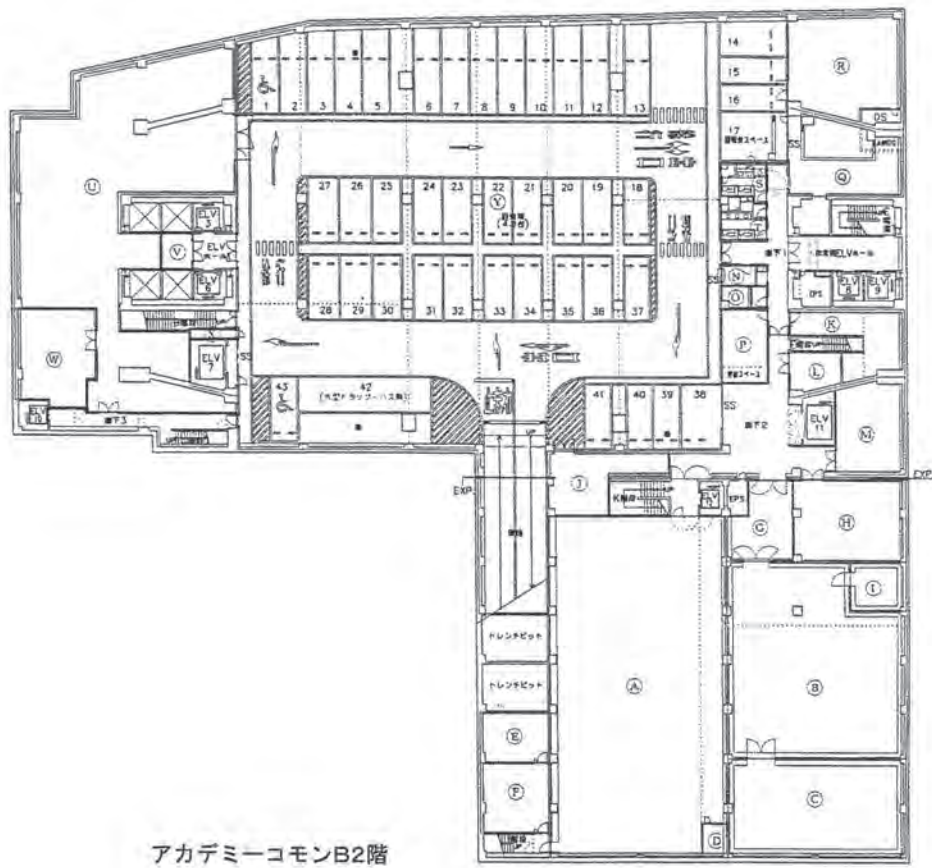
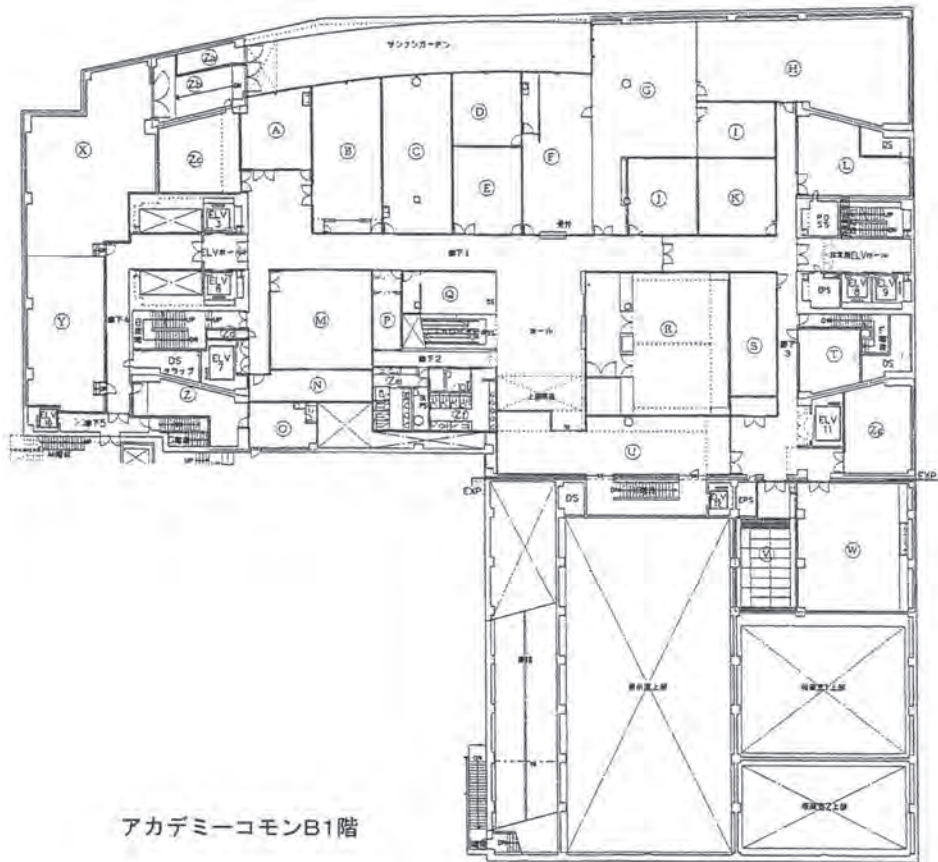
収入合計	1,280,000	4,311,277
前年度予算決算額	1,280,000	1,930,392
増・減(▲)	0	2,380,885

## 4 施設概要・見取り図

### (1) 施設概要

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86 m <sup>2</sup>	243.90 m <sup>2</sup>
	事務室	B1	F	94.06 m <sup>2</sup>	
	会議室	B1	J	45.12 m <sup>2</sup>	
	倉庫	B1	L	61.86 m <sup>2</sup>	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04 m <sup>2</sup>	523.22 m <sup>2</sup>
	書庫	B1	H	176.03 m <sup>2</sup>	
	閲覧室	B1	I	35.95 m <sup>2</sup>	
	博物館教室	B1	B	87.94 m <sup>2</sup>	
	体験学習室	B1	A	44.31 m <sup>2</sup>	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95 m <sup>2</sup>	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19 m <sup>2</sup>	785.73 m <sup>2</sup>
	大学史展示室	B1	U	115.20 m <sup>2</sup>	
	特別展示室	B1	R	173.34 m <sup>2</sup>	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03 m <sup>2</sup>	332.76 m <sup>2</sup>
	作業室 1	B1	V	60.80 m <sup>2</sup>	
	作業室 2	B1	W	129.70 m <sup>2</sup>	
	展示準備室	B1	K	50.23 m <sup>2</sup>	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90 m <sup>2</sup>	649.11 m <sup>2</sup>
	一時保管室	B2	H	77.35 m <sup>2</sup>	
	収蔵室 1	B2	B	271.46 m <sup>2</sup>	
	収蔵室 2	B2	C	147.37 m <sup>2</sup>	
	特別収蔵室	B2	I	23.28 m <sup>2</sup>	
	写真保管室 1	B1	S	56.68 m <sup>2</sup>	
	写真保管室 2	B1	T	34.07 m <sup>2</sup>	
合 計					2,534.72 m <sup>2</sup>

(2) 施設見取り図





## 5 規程

### 明治大学博物館規程

1991 年 10 月 31 日制定

1991 年規程第 2 号

(趣旨)

**第 1 条** この規程は、明治大学学則第 64 条第 2 項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

**第 2 条** 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

**第 3 条** 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
- (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (8) 生涯教育の振興及び学習支援
- (9) 分館の設置及び運営
- (10) その他必要と認められる事業

(館長)

**第 4 条** 博物館に、館長 1 名を置く。

2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。

3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。

4 館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 館長は、再任されることができる。

6 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

**第 5 条** 博物館に、副館長 1 名を置く。

2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、理事会が任命する。

4 副館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

**第 6 条** 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職 1 名並びに学芸員及び職員若干名を置く。

3 学芸員は、第 3 条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

**第 6 条の 2** 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。

3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館運営委員会)

**第 7 条** 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(1) 第 3 条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項

(2) 博物館の管理・運営に関する事項

(3) 予算及び決算に関する事項

(4) その他委員会が必要と認めた事項

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 館長

(2) 副館長

(3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名

(4) 第 6 条第 2 項に規定する学芸員

(5) 学術・社会連携部長

3 前項第 3 号の委員は、学長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 委員会に、委員長及び副委員長各 1 名を置く。

7 委員長は、第 2 項第 1 号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。

8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。

9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

**第 7 条の 2** 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。

6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

**第 8 条** この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

**第 9 条** この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

附 則 (1991 年規程第 2 号)

(施行期日)

- 1 この規程は、1991年（平成3年）10月31日から施行する。  
（明治大学刑事博物館規程等の廃止）
- 2 次に掲げる規程は、廃止する。
- (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和56年規程第72号）  
(2) 明治大学商品陳列館規程（昭和56年規程第73号）  
(3) 明治大学考古学博物館規程（昭和56年規程第74号）  
（通達第669号）
- 附則**（1996年度規程第16号）  
この規程は、1997年（平成9年）4月1日から施行する。  
（通達第893号）（注 博物館協議会の設置に伴う改正）
- 附則**（2001年度規程第14号）  
この規程は、2002年（平成14年）4月1日から施行する。  
（通達第1143号）（注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正）
- 附則**（2003年度規程第8号）  
（施行期日）
- 1 この規程は、2004年（平成16年）4月1日から施行する。  
（改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例）
- 2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8条第1項の規定にかかわらず、2004年（平成16年）3月31日をもって満了するものとする。  
（通達第1232号）（注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正）
- 附則**（2006年度規程第13号）  
この規程は、2006年（平成18年）11月16日から施行する。  
（通達第1490号）（注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正）
- 附則**（2007年度規程第21号）  
この規程は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。  
（通達第1562号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）
- 附則**（2008年度規程第4号）  
この規程は、2008年（平成20年）5月20日から施行する。  
（通達第1689号）（注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正）
- 附則**（2009年度規程第7号）  
この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。  
（通達第1807号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）
- 附則**（2017年度規程第3号）  
（施行期日）
- 1 この規程は、2017年（平成29年）4月20日から施行する。  
（委員の任期の特例）
- 2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年（平成31年）3月31日までとする。  
（通達第2462号）（注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正）

## 博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定  
1994年度例規第7号

（趣旨）

**第1条** この要綱は、明治大学博物館規程（1991年規程第2号）第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品（以下「資料等」という。）の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

**第2条** この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。  
(2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

（申請）

**第3条** 資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。（許可）

**第4条** 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。  
(2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。  
(3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。  
(4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。  
(5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができると明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

（撮影・掲載を許可しない場合）

**第5条** 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合  
(2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合  
(3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合  
(4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合  
(5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

（料金）

**第6条** 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別

表第 1 に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

- 2 料金は、資料等 1 点当たりの金額とする。
- 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。(料金の免除)

**第 7 条** 前条第 1 項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。
  - (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
  - (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
  - (4) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
  - (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
  - (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
  - (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。
- 2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1 部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めるときは、この限りでない。

(準用規定)

**第 8 条** 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第 3 条から前条までの規定を準用する。

- 2 前項の場合において、第 6 条第 1 項中「別表第 1 に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第 2 に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第 3 に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

**第 9 条** この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

**第 10 条** 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

- 2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

**第 11 条** 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

- 2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

**第 12 条** 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

- 2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

**第 13 条** この要綱に定めのない事項については、館長が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

**附 則** (1994 年度例規第 7 号)

この要綱は、1994 年（平成 6 年）9 月 27 日から施行する。

**附 則** (1997 年度例規第 7 号)

この要綱は、1997 年（平成 9 年）12 月 16 日から施行し、改正後の第 1 条及び第 13 条の規定は、同年 4 月 1 日から適用する。

(通達第 922 号) (注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正)

**附 則** (2004 年度例規第 7 号)

この要綱は、2004 年（平成 16 年）10 月 1 日から施行する。

(通達第 1312 号) (注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正)

**附 則** (2007 年度例規第 9 号)

この要綱は、2007 年（平成 19 年）9 月 10 日から施行する。

(通達第 1563 号) (注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2009 年度例規第 9 号)

この要綱は、2009 年（平成 21 年）6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

(通達第 1808 号) (注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2015 年度例規第 13 号)

この要綱は、2016 年（平成 28 年）4 月 1 日から施行する。

(通達第 2363 号) (注 デジタル化に即した規定に改めると及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正)

**附 則**

この要綱は、2017 年（平成 29 年）4 月 26 日から施行する。

(通達第 2466 号) (注 博物館運営委員会に改組されたことに伴う改正)

**別表第 1** (第 6 条関係)

撮影・掲載料金 (消費税は含まない。)

写 真・動 画	10,000
---------	--------

(単位：円)

**別表第 2** (第 8 条関係)

熟覧料金 (消費税は含まない。)

熟 覧	5,000
-----	-------

(単位：円)

**別表第 3** (第 8 条関係)

貸出掲載・転載料金 (消費税は含まない。)

1 写真フィルム原版

サイズ	4 × 5 (インチ)	6 × 8 (cm) 6 × 6 (cm)	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

(単位：円)

2 デジタル写真

カラー・ モノクローム	4,000
----------------	-------

(単位：円)



## 3 動画及びデジタルコンテンツ

動画及びデジタルコンテンツ	20,000
---------------	--------

(単位：円)

## 明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱

2005年10月4日制定  
2005年度例規第7号

(趣旨)

**第1条** この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。  
(管理責任者)

**第2条** 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。  
(利用範囲)

**第3条** 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

**第4条** 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。
- 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。  
(利用申込み)

**第5条** 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

**第6条** 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
- (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
- (3) その他利用が不相当と認められる場合

2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

**第7条** 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

**第8条** 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認められたとき。

2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

**第9条** 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

**第10条** 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。

4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。

5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。  
(権利の譲渡及び転貸の禁止)

**第11条** 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

**第12条** 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。

3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

**第13条** 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

**第14条** この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

**附則**(2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年(平成17年)10月5日から施行する。

(通達第1397号)

**附則**(2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。  
(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署

名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2009 年度例規第 9 号)

この要綱は、2009 年 (平成 21 年) 6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

(通達第 1808 号) (注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則**

この要綱は、2017 年 (平成 29 年) 4 月 26 日から施行する。  
(通達第 2466 号) (注 博物館協議会が博物館運営委員会に改組されたことに伴う改正)

## 明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995 年 5 月 8 日制定

1995 年度規程第 2 号

(設定)

**第 1 条** 明治大学 (以下「本大学」という。)に、本大学文学部史学地理学科 (考古学専攻) の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金 5,000 万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金 (以下「基金」という。)を設定する。

(目的)

**第 2 条** 基金は、考古学及び明治大学博物館 (以下「博物館」という。)にかかわる調査・研究 (以下単に「調査・研究」という。)を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

(資産)

**第 3 条** 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

- (1) 第 1 条の指定寄付金
- (2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金
- (3) 第 7 条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

(基金の運用等)

**第 4 条** 基金の資産は、資金の運用に関する規則 (2009 年度規則第 20 号) に基づいて運用する。

- 2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。
- 3 基金は、第 6 条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。

(事業)

**第 5 条** 基金による事業は、次のとおりとする。

- (1) 調査・研究に対する助成
- (2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰
- (3) 前 2 号のほか、第 2 条の目的達成に必要な事業

2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。  
(基金運営委員会)

**第 6 条** 基金の運用等及び前条第 1 項の事業に関する事項を審議するため、基金運営委員会 (以下「運営委員会」という。)を置く。

- 2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) 明治大学博物館長 1 名
  - (2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任 (次号において「主任」という。) 1 名
  - (3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうち

から主任が推薦する者 若干名

- (4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2 名
- (5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名
- 3 前項第 3 号及び第 5 号の委員は、委員長が委嘱する。
- 4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 第 2 項第 3 号及び第 5 号の委員は、再任されることができる。
- 6 運営委員会に、委員長を置き、第 2 項第 1 号の委員をもって充てる。
- 7 委員長に事故あるときは、第 2 項第 2 号の委員が、その職務を代行する。
- 8 委員長は、会務を総理する。
- 9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可決同数のときは、委員長の決するところによる。
- 12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。  
(収支残額の処理)

**第 7 条** 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

(事務)

**第 8 条** 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(規程の改廃)

**第 9 条** この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則)

**第 10 条** この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

**附 則** (1995 年度規程第 2 号)

(施行期日)

- 1 この規程は、1995 年 (平成 7 年) 5 月 9 日から施行する。  
(委員の任期の特例)
- 2 この規程の施行後、最初に任命される第 6 条第 2 項第 3 号及び第 5 号の委員の任期は、同条第 4 項本文の規定にかかわらず、1997 年 (平成 9 年) 3 月 31 日までとする。  
(通達第 806 号)

**附 則** (2003 年度規程第 35 号)

この規程は、2004 年 (平成 16 年) 4 月 1 日から施行する。  
(通達第 1282 号) (注 考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正)

**附 則** (2007 年度規程第 40 号)

この規程は、2007 年 (平成 19 年) 11 月 8 日から施行する。  
(通達第 1604 号) (注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正)

**附 則** (2009 年度規程第 7 号)

この規程は、2009 年 (平成 21 年) 6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。  
(通達第 1807 号) (注 事務機構第二次見直しによる部

署名等の変更に伴う改正)

**附 則** (2010 年度規程第 6 号)

この規程は、2010 年 (平成 22 年) 5 月 26 日から施行し、改正後の規定は、同年 3 月 30 日から適用する。

(通達第 1911 号) (注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正)

## 明治大学博物館友の会会則

1988 年 6 月 25 日制定  
1993 年 4 月 1 日改訂  
2006 年 4 月 1 日改訂  
2010 年 4 月 1 日改訂  
2014 年 4 月 1 日改訂

(名称)

**第 1 条** 本会は、明治大学博物館友の会という。

(事務所)

**第 2 条** 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台 1-1 明治大学 (以下「大学」という) に所在する明治大学博物館 (以下「博物館」という) 内に置く。

(目的)

**第 3 条** 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

(事業)

**第 4 条** 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 講演会・研修会・見学会などの開催
- ② 会報、ニュース、図書の発行
- ③ 会員による自主研究分科会活動
- ④ 博物館事業への協力活動
- ⑤ その他目的達成に必要と認められた事業

(入会)

**第 5 条** 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

2 会員には会員証を発行する。

(会員の特典)

**第 6 条** 会員には、次の特典がある。

- ① 本会および博物館の行事などの情報提供
- ② 大学並びに博物館主催行事への優待参加
- ③ 大学図書館の閲覧

(退会)

**第 7 条** 会員の資格は、次の場合に消滅する。

- ① 退会の申し出があった場合
- ② 死亡した場合
- ③ 会員証記載の有効期限が過ぎた場合
- ④ 本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合

(役員)

**第 8 条** 本会に、次の役員を置く。

- |         |       |
|---------|-------|
| ① 会 長   | 1 名   |
| ② 副 会 長 | 2 名以内 |
| ③ 理 事   | 5 名以内 |
| ④ 運営委員  | 若干名   |
| ⑤ 監 事   | 2 名以内 |

(役員を選出)

**第 9 条** 役員は、次のとおり選出するものとする。

① 会長および監事は、総会で選出する。

② 副会長および理事は、会長が任命する。

③ 総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。

④ 上記②、③について、会報で報告する。

⑤ 監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

(役員の仕事)

**第 10 条** 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

① 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

② 副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。

③ 理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。

④ 運営委員は、理事と共に会務を行う。

⑤ 監事は、本会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることが出来る。

(役員任期)

**第 11 条** 役員任期は、2 年とする。ただし、役員の前任を妨げない。

2 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

**第 12 条** 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

2 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。

3 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。

(総会)

**第 13 条** 本会は、年 1 回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。

(理事会)

**第 14 条** 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

① 総会に付議する重要な事項。

② その他、本会の運営に関する重要な事項。

なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。

(運営委員会)

**第 15 条** 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

**第 16 条** 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| ① 一般会員       | 3,000 円         |
| ② 家族会員       | 1,500 円 (同居の家族) |
| ③ 学 生        | 1,500 円         |
| ④ 賛助会員 (1 口) | 10,000 円        |

(経費)

**第 17 条** 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。



(事業年度)

**第18条** 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

**第19条** 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

## 6 2018年度教育・研究に関する長期・中期計画

### 1 理念・目的

グローバル化や情報化の進展にともなう多様な社会情勢に対応できる高度な適応力をもった人材の育成や、学びを基軸とした新たなコミュニティの形成など、大学に対する社会の要請が近年ますます高まるなかで、教育・研究の成果を広く還元し、社会の発展に寄与することは、大学の使命の重要な一面である。博物館は、大学全体の社会的発信力を高め、本学の発展に貢献するための重要なインフラとして本学の特色ある教育・研究の一翼を担う。そして、博物館独自の展示や生涯学習の多様な機会の提供などをおして社会に貢献する拠点的な役割を果たす。

ミッション1：収蔵資料の保管、拡充および利活用の促進

約32万点に及ぶ国内有数規模の各種収蔵資料を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充  
本学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、全学的なネットワークのもとで博物館として特色ある展示及び教育・研究事業を実現する。

ミッション3：社会連携の推進と情報発信

本学の教育・研究の成果を社会に還元するため、生涯学習の多様な機会の提供、及び地域の関係機関との交流を推進する。また、情報通信技術の活用によって、本学の教育・研究成果をより広範な人々に対して発信する役割の一翼を担う。

### 2 内部質保証

2017年度に博物館協議会から改組した教員を中心に構成される運営委員会や、博物館友の会との連絡会議を活用し学内外から直接評価を得るとともに、あわせて来館者アンケートの実施とデータ分析を行い、事業の改善に資する。それらの結果は、自己点検に反映するとともに各種刊行物やホームページを通して内外へ公表し、一般からの評価が可能な形とする。

(1) 自己点検・評価

博物館自己点検・評価委員会による点検・評価作業を中心に、教員を中心に構成される博物館運営委員会における意見聴取をはじめ、教職員や学外の有識者等に対し幅広く評価を求める。また、各種アンケート調査や博物館友の会との対話をとおして、積極的に利用者の意見を

聴取し、博物館運営と事業の改善に資する。

### 3 教育研究組織

博物館運営委員会は、博物館の運営方針の決定と執行に責任を負う議決機関として、2017年度に旧博物館協議会から改組された。博物館に関連する専門分野の教員を中心に構成され、議決や博物館への意見・提言にとどまらず、整理・研究・展示などの共同事業や外部への広報支援などへの参画を求める実務的な側面をもつ組織とする。また、他大学よりも先行している本学の専任学芸員のあり方について、専門的で高度な業務を安定的に維持するための専門職化を求めていく。

(1) 博物館運営委員会

議決機関として改組された運営委員会について、課題解決を目的としたワーキンググループ等、体制の在り方を検討し運営の整備をはかる。

(2) 学芸員の位置づけ

本学の博物館が他大学に対して優位性を保持しているとすれば、それは、教員の兼担ではなく専任の学芸員が配置されていることにより、恒常的に館務を遂行することが可能である点と、高度に専門的な職務を遂行する要員として機能している点が理由である。この博物館のコア・コンピタンスを維持し発展していくためには、学芸員を専門職として制度的に位置付ける必要がある。

### 4 教育課程・学習成果

学芸員養成課程履修生への実習対応のほか、各学部の一一般学生に対し、特別講義や半期の講義により博物館に関わる学術成果の普及をはかる。

(1) 教育普及事業

商学部対象の特別講義、各学部生を対象とした共通総合講座を開講する。国際日本学部で開講する文化資料学では、国内の学生にとどまらず、留学生も対象とし、日本の文化資料への理解の深化と海外への発信を促す。

(2) 博物館実習生の受け入れ

学芸員養成課程と連携し、継続して実習生の受け入れと指導を行う。指導内容は各部門で特色を持たせて選択の幅を広げ、実習生のニーズに対応する。

### 5 教育研究等環境

国内有数規模の各種収蔵資料について、調査・研究を進めるとともに、収蔵台帳の整備による学術情報公開、修復および保存処理を通じた資料の保全に努める。また、資料の購入や寄贈の受け入れにより、収蔵資料の充実をはかり。さらに、資料を利活用するために必要不可欠なレファレンス体制の整備と収蔵スペースの充実を目指す。

(1) 収蔵資料の保管と拡充

収蔵資料の調査研究と収蔵台帳の整備を継続し、学術情報の公開を進める。あわせて、資料の保存処理・修復・良好な保存環境の維持により、資料の保全をはかるとともに、展示への利活用を可能とする。また、購入や寄贈資料の受け入れによる収蔵資料の内容の充実と、調査研究に資する博物館図書室の整備に努める。

(2) 収蔵スペースの増床

アカデミーコモン地下1・2階にある収蔵室の収容能力はすでに限界に達している。今後の体系的な資料収集と整備に資するべく、200㎡程度の収蔵施設の増設を要望する。

(3) 学内外の教員・研究者による収蔵資料の利用促進  
収蔵資料を研究対象とし、長期的な研究活動を希望する学内外の教員・研究者が、資料を継続的に利用できる組織的・施設的な体制を整備する。

#### (4) 展覧会の共同開催

学内外の機関などからの利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなっている。特別展示室の利用を一層周知し、学内団体による利用を活性化させ、共同利用機能の拡充を目指す。

#### (5) 共同研究・成果発信の体制

刑事、商品、考古の3部門からなる博物館の専門分野に関連する研究・知財戦略機構付属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットなどの活動との連携、また、学部・大学院との連携などにより、教員や研究グループとの共同研究・成果発信の体制を継続的に構築し強化する。

### 6 社会連携・社会貢献

特別展の開催は、各年度における博物館の最重要事業であり、最も重点的に予算を配分する。数年にわたる準備期間をかけて、調査研究の成果公開を行う。また、次年度の特別展や文部科学省私立大学研究ブランディング事業、地域連携、館蔵コレクション研究の深化など、博物館活動の根幹をなす調査研究活動を多角的に推進する。また、本学の教育・研究の成果を社会に還元するため、生涯学習の多様な機会の提供、及び地域の関係機関との交流を推進する。さらに、情報通信技術の活用によって、本学の教育・研究成果をより広範な人々に対して発信する一翼を担う。

#### (1) 博物館主催特別展の開催

博物館や提携する学内研究機関の調査・研究の成果を社会発信するために企画する特別展は、博物館の中核事業として毎年の重点項目の最上位に位置づけられる。特別展の担当学芸員は、年間エフォートの大半を傾注しており、年間7万人を前後する来館者数の確保に大きく貢献している。会期に並行して、特別展のテーマに応じた公開講座など関連事業を展開する。

#### (2) 調査研究の推進

収蔵資料をベースとした調査研究を多角的に推進する。各年度の主体的事業となる特別展に関する調査研究を2～3年かけて取り組むほか、内藤家文書など館を代表するコレクションや文部科学省研究ブランディング事業は、規模に応じて中・長期的スパンで継続して取り組む。特に「考古学する明治大学」ブランドを博物館から発信するために、重要文化財を含む考古コレクションの多視点的アーカイブの構築を行う。

#### (3) 教育研究成果の社会還元及び情報発信の強化

30年の歴史をもつ公開講座をはじめ、一般社会人のニーズが高い入門講座を継続して展開する。一部の講座は、特別展やブランディング事業とのリンクをはかり、研究成果の積極的な社会還元に努める。来館者の動向に直結する情報発信は、従来の学内・駿河台近隣地域・リピーター向けを中心にしたものに加え、インターネット媒体や新聞広告、SNSなど、より広い層をターゲットとする方法を充実させる。

#### (4) 地域連携・大学間連携事業の推進

3期目となる南山大学人類学博物館との交流事業の実施により、博物館学分野の共同研究のほか、交換展示や交換講座の実施による互恵的な学生教育や学術資料の社会還元を推進する。社会連携プログラムでは、千代田区

のほか、原資料所在地等の自治体・機関との連携事業を推進する。

#### (5) 展覧会の共同開催

学内外の機関などからの利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなっている。特別展示室の利用を一層周知し、学内団体による利用を活性化させ、共同利用機能の拡充を目指す。

#### (6) 共同研究・成果発信の体制

刑事、商品、考古の3部門からなる博物館の専門分野に関連する研究・知財戦略機構付属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットなどの活動との連携、また、学部・大学院との連携などにより、教員や研究グループとの共同研究・成果発信の体制を継続的に構築し強化する。

#### (7) 博物館友の会活動への支援

博物館友の会は、会員による自律的な運営体制をとっており、博物館は、友の会会員のボランティアによる展覧会や図書室の運営、資料整理等について多大な支援を受けている。友の会は、博物館の対外的な評価の形成に大きく貢献しているため、大学と一般社会との接点として機能している友の会活動を支援することは、博物館にとって重要な意味をもっており、周年事業も含め今後も推進していく。

### 7 大学運営・財務

関係学術分野の専門的知識と技能を有する学芸員は博物館運営の核であり、将来にわたって質的な向上を目指すうえで、職制上専門職として位置づけることが必要である。また、入館者が開館時の1.7倍に達するなど、開館から10年を経て業容が拡大しながら専任職員は逆に減員されている。博物館の充実をはかるためには、事務担当の専任職員の配置が不可欠である。また、過去の購入・寄贈資料等の資産登録時に勘定科目の変更が度々行われたため、管理簿上で混乱が生じていた。近年実施している関係部署と連携した適切な管理体制の維持と、所蔵品点検を行う。

#### (1) 学芸員の専門職化

博物館運営の中心を担う学芸員について、専門職として制度的に位置づけられるよう要請する。また、今後の受入資料の専門領域拡大によっては、対処する専門学芸員の増員についても検討する。

#### (2) 事務組織

現在一般事務職員の配置がないことにより学芸員の専門的職務の遂行が制約を受けている。業務の適正化や今後の博物館事業の展開を見据え、関係部署に事務担当の専任職員の配置を要求する。

#### (3) 適切な財産管理手段の構築

資料の収集は戦前から行われてきたが、度重なる組織改編や所在地移転のため、資産登録に関する勘定科目についてもたびたび変更が行われ、煩雑化した。関係部署と連携して新収蔵資料に対して適切な勘定科目に基づく資産登録を行うとともに、適宜所蔵品点検を実施して管理体制を充実させる。

### 8 情報のデジタル発信および国際化

博物館の収蔵資料は国内でも有数の学術資源であり、その活用は国際的な広がり期待される。これら多様な資料の全体像と詳細な学術情報を国内外に発信するため、ICTミュージアムの構築と公開、紙媒体のガイド類・ホームページ



ジの外国語化とあわせ、SNS 等によるデジタル情報の発信をさらに強化する。また、海外での調査や研究成果発信、海外の研究者に対するレファレンス体制の整備を進め、国際的な学術交流を推進する。

(1) ICT ミュージアムの増強

2017 年度までに構築した ICT ミュージアムのコンテンツを増強する。三部門共通のコレクション・データベースを充実し、重要文化財を含む考古コレクションの多視点的アーカイブをコンテンツとした国際発信を行う。

(2) 情報発信の充実

海外からの留学生および旅行者を念頭に、展示ガイドブック、リーフレット等の紙媒体やホームページの外国語化の充実をはかる。あわせて、SNS を活用した情報

発信を強化する。

(3) 国際学術交流の推進

国際学術交流の近年の実績としては、旧石器時代研究に関わる韓国の石壮里博物館での重要文化財の展示会、明治期の古墳研究資料として著名なガウランド寄託資料に関わる大英博物館での調査などを挙げることができる。東アジア諸国や西欧諸国の博物館との国際交流の機会を増やし、学術交流を推進する。

(4) 海外からの研究者受入体制の整備

国際学術交流を推進するには、資料情報の発信とともに、国外の研究者による収蔵資料の利用受入体制を整備することも必要である。海外研究者の受入を視野にレファレンス体制を整備する。

## 7 2018 年度単年度計画重点項目一覧

重点項目 (計画内容・理由等)	詳細内容 (成果・効果・達成目標・検証方法等)	備考
博物館主催国際特別展「ガウランドと日本の古墳研究」(仮)の開催	毎年度開催している本学および博物館コレクションの研究成果を社会還元する特別展は、博物館の社会連携事業の最重要項目である。本展は、2009 年以来調査を行ってきた、当館寄託資料に関連する明治期の古墳調査記録をロンドン・大英博物館より借用して出展する。日本初出展の資料群を通して、外国人による黎明期の日本の古墳研究の姿を明らかにする。約 2 ヶ月間の会期中、5,000 人程度の入場者を目標とする。また、記念講演会では、大英博物館学芸員を招聘する。ギャラリートークや公開講座では、延べ 500 人程度の参加者を目標とする。	協定校の East Anglia 大学、Sainsbury 日本藝術研究所および大英博物館と日本国内の研究者(本学教員と学芸員が参加)で構成される研究グループ「Gowland Project」の協力を得る。
重要文化財を含む考古コレクションの多視点的アーカイブと国際発信	博物館には、戦後以降、考古学の各分野の発展を牽引した発掘記録と遺物がコレクションされている。本課題では、重要文化財を含む遺物・発掘記録についてデジタル化、理化学的な方法との連携などによる多視点的かつ現在の研究視点からコレクションの学術評価を行う。これら各種情報をアーカイブ記録として一体化し、コレクション研究報告の刊行および 2017 年度までに構築した ICT ミュージアムにより国内外へ発信を行うことで、「考古学する明治大学」ブランドを博物館から発信する。2018 年度を 4 カ年計画の 1 年目とし、旧石器時代および古墳時代を中心に 1000 点前後の遺物からなるアーカイブを構築する。	2017 年度に公開した ICT ミュージアムのコンテンツを増強する。
山陰地方民藝陶器のマーケティング研究	商学部教員等に研究調査員を委嘱して組織している商品部門研究推進部会の活性化を図る。近年注目される「地域ブランド」の向上という観点から伝統的工芸品のマーケティングを研究するため、再び社会的な関心が高まりつつある「民藝運動」に関わる山陰地方の陶磁器産業について注目する。2016 年度から 3 ヶ年計画の 3 年目は島根地域の産地を対象とし、製造・流通の関係者を交えて検証した成果を公開特別講義(商学部生・他学部生・一般社会人への公開)及び『博物館研究報告』で公開する。	
明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業	交流事業(2010 年度より実施)の 3 期事業(2016～2018 年度)として行う。3 年目は、展示や教育法など歴史系博物館を中心とした博物館学に関するシンポジウムなどを開催する。あわせて交換展示を行い、学生教育に資するとともに本学の研究成果・研究資源を名古屋地域にてアピールする。	

## 8 明治大学博物館のあゆみ

1881 (明治 14) 年 1 月 明治法律学校開校

× ×

1929 (昭和 4) 年 4 月 刑事博物館を記念館 5 階に開設  
1931 (昭和 6) 年 大学創立 50 周年記念刑事展覧会開催



1933 (昭和 8) 年	刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任 9月 『刑事博物図録』を刊行  (第2次世界大戦)
1949 (昭和 24) 年	新制大学へ移行
1951 (昭和 26) 年	4月 刑事博物館の運営を再開 館長に島田正郎法学部教授(後、明治大学総長) 林久吉商学部教授(初代商品陳列館長)らの商品研究所が資料室を開設 考古学陳列館が2号館4階に開館 初代館長に後藤守一文学部教授が就任
1952 (昭和 27) 年	
1954 (昭和 29) 年	4月 刑事博物館が2号館4階へ移転 6月に一般公開開始
1955 (昭和 30) 年	2月 刑事博物館が博物館相当施設に指定される(2004年3月廃館にともない指定解除)
1957 (昭和 32) 年	5月 商品陳列館が2号館4階に開館  (この頃には3館とも一般公開 3館共通の入館案内を作成)
1960 (昭和 35) 年	考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授が就任
1963 (昭和 38) 年	譜代大名内藤家文書を和泉校舎図書館に収蔵、後、刑事博物館に移管
1966 (昭和 41) 年	4月 小川町校舎へ移転(考古2階・刑事3階・商品4階) 商品陳列館長に三谷茂商学部教授が就任  (大学紛争)
1976 (昭和 51) 年	4月 刑事博物館長に鍋田一法学部教授が就任
1977 (昭和 52) 年	4月 商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催(年1回～2003)
1981 (昭和 56) 年	1号館(刑事1階・考古3階)、11号館(商品4階)へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部教授が就任
1983 (昭和 58) 年	9月 考古学陳列館長に大塚初重文学部教授が就任
1985 (昭和 60) 年	11月 3館大学会館へ移転(刑事・商品3階・考古4階)「考古学博物館」に名称変更
1987 (昭和 62) 年	5月 公開講座「考古学ゼミナール」開講
1988 (昭和 63) 年	6月 考古学博物館友の会結成
1991 (平成 3) 年	4月 3博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置 10月 「明治大学博物館規程」制定
1995 (平成 7) 年	4月 考古学博物館長に戸沢充則文学部教授が就任 刑事博物館長に川端博法学部教授が就任 10月 博物館入門講座を開講
1997 (平成 9) 年	4月 刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催(～12月)
2001 (平成 13) 年	4月 刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
2002 (平成 14) 年	4月 商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授が就任
2004 (平成 16) 年	4月 「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館 博物館長に小疇尚文学部教授が就任 「明治大学博物館規程」改正施行(刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合) 国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」開催(～5月) 10月 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託(～2005年3月)
2006 (平成 18) 年	4月 博物館長に杉原重夫文学部教授が就任 8月 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託(～2007年3月) 10月 特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示 11月 明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる(～2010年3月)
2007 (平成 19) 年	10月 事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
2009 (平成 21) 年	4月 事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる 巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」展開催 中国国家一級文物を展示(～5月)
2010 (平成 22) 年	3月 南山大学人類学博物館と交流協定締結
2012 (平成 24) 年	4月 博物館長に風間信隆商学部教授が就任
2013 (平成 25) 年	2月 ギロチンとニュルンベルクの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展」開催(～3月) 3月 南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いとコレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行 7月 岩宿遺跡出土石器(重文・29点)他記録類をはじめて海外へ出展(～9月) 韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展開催(～2014年2月)
2014 (平成 26) 年	5月 開館10年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」開催(～6月) 7月 大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介した「明治大学コレクションの世界:氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催(～8月)
2016 (平成 28) 年	3月 常設展示を改修、新装オープン 東京都教育庁から博物館相当施設に指定される 4月 博物館長に村上一博法学部教授が就任
2017 (平成 29) 年	4月 明治大学博物館規程の一部改正が承認され、博物館協議会を博物館運営委員会に改組
2018 (平成 30) 年	3月 2017年度入館・利用者数10万人超え達成 4月 博物館長に井上崇通商学部教授が就任 8月 2004年4月開館からの累計入館・利用者数100万人超え達成

## 明治大学博物館年報 2018年度

---

2019年6月18日 発行

編集・  
発行人 明治大学学術・社会連携部博物館事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電 話 03-3296-4448

F A X 03-3296-4365

U R L <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

印 刷 株式会社 日本制作センター

---

